

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。  
プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0/A ¥ 1 8 9 0/B ¥ 2 0 9 0/C ¥ 2 2 5 0/D ¥ 2 4 9 0}  
(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

[www.tambourine-japan.com](http://www.tambourine-japan.com) email: [song@tambourine-japan.com](mailto:song@tambourine-japan.com)

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

### クレア地方の音楽 (P46)

#### [Cassette Tape/ I R E L A N D]

- \*MICKEY DOHERTY: The Gravel Walks ¥2800  
("The Fiddle Music Of Mickey Doherty".二本組カセット・テープ。ケースに二箇所2~3センチのキズがあります。Cmhairle Bhealoideas Eireann)

#### [Single CD/ I R E L A N D]

- \*ANDY IRVINE & DAVE SPILLAND: East Wind ¥1200  
("East Wind"からシングル用ヴァージョン全3曲。1992作。Tara)  
\*DOLORES KEANE: Lion In A Cage ¥150  
("大安売り。"Lion In A Cage" [Lion Mixヴァージョン], "Heart Like A Wheel", "Lion In A Cage" [7" Mixヴァージョン]の3曲収録。1989作。Ringsend Road)

#### [CD+CD-ROM/ I R E L A N D]

- \*AMHRAN IS FICHE DON NOLLAIG ¥4190  
(CDとCD-ROMの一枚セット。CDプレイヤーにかければCDで、パソコンに入ればCD-ROM。CDはアイルランドのMairead Ni Mhaonaighとシェイマス・ヘグリーの妹のMeabh Ni BheaglaoidhとLiadanのSile Denvirの三人の女性シンガーによる21曲収録のアイルランドの伝統的クリスマス・ソング集。ゲール語地域の異なる三人の歌姫の唄は、全曲ギターのための伴奏付きで、全曲それぞれの地域のゲール語。シンキングはシングルそのもの。それ故にそれぞれの歌姫のシンキングの味わいがストレートに味わえる。CD-ROMはゲール語の歌詞[印刷可]、英語の歌詞[印刷可]、カラオケでの唄のレッスンなど。尚、視聴した盤はCDプレイヤーでは最後の数曲で各1,2回音飛びしました。パソコンでは音飛びはありませんでした。CDプレイヤーで聴くことを前提にしていけないのかも。2009作。Fios Feasa)
- \*AMHRAN IS FICHE EILE ¥4190  
(上記CDとCD-ROMの一枚セットのシリーズの前の作品。Eilis Ni ChinneideとAoife Ni FhearraighとCaitriona Ni Cheannabhainの三人の女性シンガーによる21曲収録のアイルランドの伝統歌集。ゲール語地域の異なる三人の歌姫の唄はそれぞれの地域のゲール語。2007作。Fios Feasa)

#### [CD+BOOK/ I R E L A N D]

- \*PETER CONLON: The Genius Of ¥2850  
(アイルランドからニューヨークに移住し、1917年のレーディング・デビューを皮切りにアメリカで活躍したメロディオン奏者Peter J Conlon [1885-1954]の演奏集の2枚組CDと彼の人生やレーディング記録などをまとめた本 [P44]の

セット。彼のエキサイティングな演奏は彼の演奏に憧れる演奏家を生んだという。SP 盤からの全 47トラック。2012 作。OTR1040TR105)

### [CD/IRELAND系]

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。

\*BLÁS:Blás album

G

(コネマラの Brennan sisters の Mary をヴォーカルに据えた大型アイリッシュ・バンドのデビュー作。女性ヴォーカルが魅力的だと、やはり音楽が映える。ゲール語の唄を一曲含む Mary のシンギングは、硬質で凜として、ある種粗野にも感じられるもの。メンバーは Mary に“Changing Time”という素晴らしいアルバムを発表しているフィドルとコンサーティーナのオール・アイルランド・チャンピオンの David Doocey {バンドのリーダー} に Gráda のメンバーでフルート奏者の Stephen Doherty と引っ張りだこのギター奏者の Shane McGowan の四名。微に入り細に入り神経の行き届いた David のフィドルはもう神業級で、フルートとギターを巻き込んだアイリッシュは、絵に描いたような理想のアイリッシュ。こびを売らない Mary のシンギング、良い良い。2015 年制作の新譜?。Blás)

\*TONY O'CONNELL:Live And Well

G

(2015 年にフルート奏者の Éamonn O' Riordan と名作“Rooska Hill”を発表した西リムリック出身でコンサーティーナのオール・アイルランド・チャンピオンの Tony O'Connell の初ソロ・アルバム。プロの演奏家として 20 年以上活動する彼のコンサーティーナの演奏は、一台で二役も三役も演じるよくおしゃべりする音楽。Jackie Daly, Noel Hill, John Carty など誰から学んだ曲であろうと、元の曲調をコピーした上で、自身の遊びを加えて演奏する。職人技の演奏に心躍る。w. Arty McGlynn {ギター}, Brid Harper {フィドル}, Cyril O' Donoghue {ブラス}, Trevor Hutchinson {ダブルベース}。全 13 トラック/29 曲。アイルランドの宝。2017 作。Tony O'Connell)

\*MARY BLACK:Sings Jimmy McCarthy

B

(2/1 入荷予定。初めて Jimmy McCarthy という SSW を知ったのは、Mary の 1985 年の“Without The Fanfare”でした。本作は既発表曲 6 曲に新たに録音した曲 4 曲そしてテレビで Mary が Jimmy とデュエットした 1 曲を加えた全 11 曲。2017 作。

\*MUIREANN Nic AMHLA0IBH:Foxglove & Fuschia

B

(Danu のヴォーカルの Muireann の七年振りの新作。二人の子どもを持つ母親になった Muireann は、現在生まれ故郷のケリーに戻って、昔からの演奏仲間達 {そうそうたる人達だが} や新しく出逢った素晴らしい演奏家達と交流することが多くなったという。そんな新しい環境下で制作された本作は、何と云うか、唄に落ち着きがあって、とても自然体で、口から発せられた唄が風になって響き渡るような清々しさや心癒されるような優しさが感じられて、唄や音楽がスッと体に入ってくる。ゲール語による肩肘張らないリルティングの軽やかさなどは、見事しか言いようがない。故郷に帰って、Muireann のシンギングはまるやかに充実しきっている。w. Gerry

O' Beirne, Seamus Begley, Pauline Scanlon, Ellis Kennedy, Maebh Ni Bheaglaoich, Donal O' Connor, Donnchadh Gough, Donogh Hennessy, Michael Rooney, John McSherry, Feargal MacAmhlaoich 他。録音は故郷ケリーの Donogh Hennessy のスタジオ。2017 年。MUNA002)

\*FRIEL SISTERS: Before The Sun ¥2390

(衝撃の出会いからほぼ四年。ドニゴールがルーツのスコットランドのグラスゴーの女性アイリッシュ・トラッド・シンガー三姉妹 {Anna, Sheila and Clare Friel} の Friel Sisters の待望の新作。彼女達、グラスゴーに住んでいても、頭の中はアイルランドでいっぱい！と思ってしまうほど、唄も音楽もメッチャ「アイリッシュ・トラッド」。前作でも思ったが、彼女たちはアイルランドの伝統歌や曲を古風で柔和で優美、かつ芯のしっかりした、例えば Dolores Keane 風のシンギングでうたい、またイリアン・パイプス、フルート、フィドルにより演奏は、野太く、アイルランドの巨匠たちの演奏を想わず風格があって、圧巻。聴いてる間、ずっと夢の中。Tommy Peoples はライナーで“ This is a joyous listen for me, the wonderfully delicate, strong, always controlled talents of Anna, Sheila and Claire Friel enhance a wondrous tradition ” と絶賛。三姉妹のサイン入り。どこにサインしてるかお探し下さい。一箇所だけじゃないですよ。2017 作。The Friel Sisters)

\*MARTIN HAYES QUARTET: The Blue Room B

(Martin Hayes の新作は、Martin Hayes と Dennis Cahill にハルダングル・ダモーレの Liz Knowles とバスクラリネットの Doug Wieselmann を加えた四人組。余計なことをやらなければ良いかと恐る恐る聴き始めたが、いやはや Martin 節は最高潮というか、むしろ彼の音楽のコアな部分を響かせた音楽で、Martin Hayes 四重奏団が奏で出す音楽に心底酔ってしまった。特に心配をしたバスクラリネットの音色は本作のタイトルの“ Blue Room ”をイメージさせるそっと心安まる音色を添えていて、Martin のアイリッシュな音楽に静けさや厳かさを添えている。音楽は Martin Hayes & Dennis Cahill の 10 年前の前作“ Welcome Here Again ”の延長線上の音楽だが、音楽から抱くイメージは“ Welcome Here Again ”が「雪舞う白銀の音楽」なのに対し、本作は「月夜の青い音楽」。さらに磨きを増して、Martin Hayes 健在！ 2017 作。251 Records)

\*OPEN THE DOOR FOR THREE: The Joyful Hour ¥2390

(Martin Hayes Quartet の Liz Knowles {フィドル、ハルダングル・ダモーレ}, Kieran O' Hare {イリアンパイプス、フルート、ホイッスル}, Pat Broaders {フラスキー、ヴォーカル} のトリオの新作で三枚目。Martin Hayes Quartet では Martin の陰で目立たぬ存在だったが、本作での Liz のフィドルは硬軟何でもございの、素晴らしいフィドル、そしてイリアンパイプスとの絡みながら舞い踊るデュエットは圧巻。「軟」の泣きのフィドルはソロで、またフルート又はイリアンパイプスのデュエットで、そしてギターを含むトリオで涙ぐませる。メチャカッコイイ！そんな中、四曲でギターの Kieran のシンギングを披露する。Martin Carthy や Nic Jones のレパートリーやアイリッシュ・ソングをキリ

っとしたシンギングで酔わせる。2017 作。Pat Broaders/Liz Knowles, Kieran O' Hara)

\*JOANNA HYDE & TADHG Ó MEACHAIR:One For The Foxes B  
(ゲスト・シンガーの Roisin Ni Ghallogaigh とのデュエットによるイエーツの“Prelude”で幕開けし、同じく二人のデュエットによるイエーツの“Tread Softly”で幕を閉じる Joanna Hyde [ヴァーカル、フィドル] と Tadhg Ó Meachair [アコ、ヴァーカル] の男女の二人組による本作は、女性フォーク・シンガーとアイリッシュがミックスした清々しいアイリッシュ。唄と唄を包むアイリッシュ・サウンドが涼風感があって、最高にさりげなくて気持ち良い。この清々しさは Parson's Hat 以来か。Joanna のシンギングはどこか夢うつな感じがあって、心惹かれるもの。二人+ゲストの Sean Og Graham [ブラス・キ], Dave Curley [マンドリン], Dermot Sheedy [ハカウ] などによるアイリッシュは今が旬の清々しさを放っていて、心ウキウキ。トータルに完璧。2017 作。Joanna Hyde & Tadhg Ó Meachair)

\*KAREN TWEED & TOM McELVOGUE:Luckpenny C  
(アコの Karen Tweed とアイリッシュ・フルートの Tom McElvogue のデュオ・アルバム。二人で本作を作ろうと思いついたとき、二人の友人の Paul Ruane [1967-2016] は闘病中だったという。本作は結果的にその亡き友人に捧げるアルバムになったのだが、Karen のアルバムとしては、久しぶりに「アイリッシュ」した音楽。それも若い頃に演奏するのが楽しくて演奏していた頃の初心に帰った無心のアイリッシュ。例えばパブの片隅で、二人で黙々と演奏に没頭するかのような集中力あるアイリッシュは、気分晴れ晴れになる。音楽的には Tom のフルートが舞い踊り、Karen のアコがノってリズム遊びをする感じだ。音楽が生き生きしていて、爽やかで、中身が濃い。2017 作。TMc Productions)

\*CAROLINE KEANE & TOM DELANY  
:Never Say Goodbye, Say Good Luck C  
(アイリッシュ・バンドの FourWinds のコンサーティナー奏者の Caroline と FourWinds のイリアンパイプ奏者の Tom のデュオ・アルバム。二人と一緒に活動し出したのはリムリック大学の学生だった 2010 年。この 8 年のキャリアは大きいとつくづく思ってしまうめっちゃカッコイイ！アイリッシュ！二人のコラボは、阿吽の呼吸というか息がぴったしで、超絶。おまけにゲストの Donagh Hennessy [ギター], Cyril O' Donoghue [ブラス・キ], Laura Kerr [フィドル], Brian O' Loughlin [フルート], Robbie Walsh [ハカウ] のバックアップ演奏の妙技が実に冴えていて、アイリッシュの質を爽やかに高めている。Caroline のシュリーヴ・ルークラ地方の音楽スタイルの味わいがミソ。感動の嵐。Caroline Keane&Tom Delany。2017 作。)

\*THE NESBITT FAMILY:Devil's Bit Sessions B  
-Three Generations Of Tradition  
(グラミー賞選出 Celtic Woman のメンバーでフィドラーの Máiréad Nesbitt と彼女の家族(下は 10 歳から上は 81 歳までの計 13 名)によるティペラリーの自宅でのセッション。本作での Máiréad のフィドルは、家族と共に楽しむ饗宴フィドル。フィドル、フルート、アコを

主要楽器にしたセッションは、ヴォーカルのいない Cherish The Ladies やイリアンパイプスのいない Chieftains のような最もアイリッシュらしいアイリッシュ。Máiréad のフィドルの巧みさは織り込み済みだが、その他の楽器のリズム感の良さと味わい {Máiréad の兄弟は全員ミュージシャン} は伝統を伝える力としか言いようのないもの。目の前で阿吽のセッションが繰り広げられている気分が襲われる。ストップを書けなければ終わりそうにない全 19 トラック/34 曲。ゲスト: Eoghan O' Neill. 2017 作。Cosmic Trigger)

\*DAVID POWER & WILLIE KELLY: Apples in Winter G

(お客様の特注で知ったウオータフォード出身のヴェテラン・イリアンパイプス奏者がニューヨークを拠点に活動するヴェテラン・アイリッシュ・フィドラーで、Cherish The Ladies の Mary Rafferty の父親でフルート奏者の故 Mike Rafferty とデュオ・アルバムを発表している Wille Kelly と組んで発表した 2016 年のアルバム。二人ともそれぞれの楽器の特長を活かした百戦錬磨の腕前の演奏と阿吽のコラボを繰り広げていて圧巻だが、その圧巻なコラボは、おそらく David Power の音色もリズムも多彩で多様だが、パイピングが極めて律儀で締まった印象を抱かせるせいだろう、アイリッシュの質が高く、全曲、アイリッシュのコアの味わいで充ちている。プロの技としか言いようのない見事さ。拝聴する心づもりでお聴き下さい。2016 作。DMP04)

\*JAMES CARTY: Hiding Daylight In Dark Corners B

(ヴェテラン・アイリッシュ・プレイヤーの John Carty が娘と素晴らしいアルバムを出したかと思ったら、今度は息子の James {フィドル} がソロ・アルバムを発表した。Michael Coleman や Michael Gorman などのスライゴ地方の曲やリートリム地方の曲を多く含む本作は、アイリッシュ移民達によるロンドンのパブ・セッションを思い起こさせる。彼のフィドルの音は洗練された音というよりむしろ古くさく粗く味のある音で、生で鍛えた音を体から発して、味わいが深い。w. John Carty, John P. Carty {James の祖父}, Ted McGowan, Brian McGrath, Francis Gaffney. 赤ちゃんのときに父親にフィドルを習ってる写真がカワイイ。全 15 トラック。2017 作。James Carty)

\*KEVIN CRAWFORD: Carrying The Tune G

(Lúnasa の Kevin Crawford {フルート、ホイッスル} の 2012 年の名盤が装いを新たに再発。フルートとホイッスルで演奏するアイリッシュの胸のすく爽快さ心地よさを改めて感じさせてくれる晴れやかなアイリッシュだ。そう言う意味では Lúnasa の核というか本流の音楽。本作は K. Crawford & John Doyle {ギター、ベース} とすべき中身で、14 トラック中 6 曲が John Doyle とのコラボで、しかも全曲で J. Doyle が参加していて、J. Doyle の歯切れの良いリズム・ギターとの音の混ざり具合が最高にアイリッシュな風を巻き上げている。音楽的に気の合う相方を得た Kevin のフルートとホイッスルはよくうたっている。他の共演者は Mick Conneely {ベース}, Brian Morrissey {ハカッ}。2012 年/2017 作。Kevin Crawford)

\*DES DONNELLY: Remember Des Donnelly G

(ティロン州出身で 1973 年に移住先の英国のマンチェスターで事故

死した伝説のアイリッシュ・フィドラーの手を尽くして{テープ録音からの復元のために Dave Pegg や Ralph McTell などに相談したという}蘇った演奏集。フィドル名手の Dezi Donnelly は Des の甥。40歳のときにはフィドル奏者として名声を得ていたという彼のフィドルは、例えば音色も近いが、Fairport の Dave Swarbrick のような勢いのあるフィドルで、アイリッシュ・パブや野外での生演奏の空気感がみなぎっていて、音楽が活気に満ちている。ブックレット裏表紙や裏ジャケットに出稼ぎ労働者と見られるオッサン達の前で演奏する写真があるが、フィドル演奏を聴くオッサン達の笑顔(\*^o^\*)が良い。w. John Roe {ピアノ}, Leo Donnelly {ギター}。全 17 トラック。2012 作。RNR001)

\*THE DOOLOUGH FAMINE WALK: Music From A Dark Lake C  
(1975 年に設立された正義・平和・人権団体 Afri {Action From Ireland} が 1988 年から行ってきた歩くイベント "Famine Walk" 30 周年を記念して制作されたアルバム。32 ページのブックレットには本 CD の企画に賛同した各ミュージシャンのメッセージやイベントに参加したときの思い出の写真などが掲載されている。Christy Moore, Luka Bloom, Sharon Shannon, Andy Irvine, Donal Lunny, Liam O' Maonlai, Declan Masterson, Mary Custy & Quentin Cooper, Hothouse Flowers, Cormac Breatnach, Roisin Elsafty & Family, Emer Mayock, Astrid Ni Mhongain, Ronnie Drew ほかによる全 18 トラック。2017 作。Afri)

\*FLORIANE BLANCKE: Kaleidoscope C  
(Dermot Byrne との二人名義のアルバムを出しているフランス人ハーブ奏者でシンガーの Floriane Blancke のソロ。彼女がアイルランドに越してきたのが 2006 年。Florian の小気味よいアイリッシュなハーブに Brendan O' Regan のブズーキ、Joanie Madden のホイッスル、Jimmy Higgins のバウロンなどが重なって楽しい自作曲の "Trip To Achill" から始まる本作は、アイリッシュ最前線の音楽家と共演 & 交流する中で育まれたハーブをフィーチャーしたアイリッシュ・セッションな香りと彩りのある音楽と唄。アイリッシュな香りを放ちつつ、フランス人的な優雅さのようなものが常に香っていて素敵。w. Dermot Byrne, Jimmy Higgins, Garry O' Briain, Tim Edey, Trevor Hutchinson, Kevin Griffin, Seamus McGuire, Claire Egan。2017 作。Floriane Blancke)

\*KITTY DONOHUE: The Irishman's Daughter B  
(本作は、家族がアイルランド移民で米国育ちの Kitty Donohue が自身のルーツに思いを馳せて制作した「わが心のアイルランド」的なアイリッシュ。曲目は "Lark In The Morning" などの伝統歌と自作曲とが半々で、自作曲は歌詞も音楽 {使用楽器は基本的にアイルランドの各種民俗楽器で、Kitty 自身シタールを演奏し、リルティングもやってのけている} もアイリッシュの空気感に充ちていて、通してたおやかに「わが心の」アイリッシュっぽい。ゲスト: Cathie Ryan。2017 作。Roheen)

\*BRENDA CASTLES: Indeed In You Needn't Bother B  
(カウンティ・ミースの伝統音楽一家で生まれ育ったというコンサー

ティーナ奏者の Brenda のソロ。「恵まれた音楽環境の上に師匠が Mícheál Ó Raghallaigh とあれば」と期待して聴き始めるや、すっかり彼女のコンサーティーナ・マジックに有頂天。テクニックだけを磨いただけではない、アイリッシュ・ダンス音楽の楽しさを体で知っている演奏家ならではのリズム感豊かで、表情豊かなダンス曲を流れるように演奏する。w. Eoghan Scott {ギター}, Paul Browne {ギター}, Tony Byrne {ギター}, Séana Davey {ハープ}, Tony Quinn {バウロン}。2016 作。Brenda Castle)

\*DEIRDRE GRANVILLE: Imram G

(ハープ奏者に好評で、改めて聴いて、コメント書き直しました。ケリー出身の女性ハープ奏者でシンガーで、マルチ楽器奏者の Deirdre のアイリッシュ・ハープ・ミュージック。彼女が特別な師と仰ぐミュージシャンは Kathleen Loughnane ほか 20 名ほど。アルバム・タイトルは「航海」の意味のアイルランドの古い言葉。伝統的アイリッシュ・ハープの奏法をマスターした上で、リズム感豊かでキラキラと軽快な演奏は、伝統的な味わいを保持しつつ、生き生きとしていて、耳に新鮮。アイリッシュハープ CD の名作。w. Steve Cooney, Aoife Granville, Cuan Granville, Brendan McCreanor。2015 作。Deirdre Granville)

\*SHANTALLA: Shantalla B

(お宝発掘。今から思えば懐かしいベルギー在住のアイルランド人ミュージシシ四太郎とベルギー在住のスコットランド人女性シンガーの Helen Flaherty の五名で産声を上げたアイリッシュ濃厚なアイリッシュ&スコティッシュ・トラッド・グループの Shantalla のデビュー作。アイリッシュの四太郎の Michael Horgan {イリアンパノイスト}, Kieran Fahy {フィドル}, Joe Hennon {ギター他}, Gerry Murray {アコ、ブズーキ他} によるアイリッシュを中心にした演奏は、ベルギーへの流れ者にしてはアイリッシュ魂みなぎる演奏が素晴らしく、初期 Solas クラスの見事な演奏でうならせ、シンガーの Helen は、哀愁を帯びたシンギングとリズムカルなシンギングで胸キュン♡。久しぶりに聴いて、改めて Shantalla の素晴らしさに感激。1999 作。Wild Boar Music)

\*DANNY MEEHAN: Drimalost and Beyond D

(副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。1924 年、西部ドニゴールの Drimalost という村の生まれのフィドル奏者の二枚組。ディスク 1 が 2007 年の録音で、ディスク 2 は古い録音 {ただし最後の 3 曲は 2008 年} で、大半がすっぴんのフィドルのソロ。全 73 曲。彼のフィドルはよくうたい、躍る。例えるなら、Tommy Peoples 同様、野生の鳥。分厚いブックレット付。ジャケットを見て、「ただの田舎のじいさんフィドラーか」と思ったら大間違い。2011 作。CNF008)

\*JOE HOLMES: Here I Am Amongst You With Len Graham B

(副題: Traditional Irish Songs, Ballads, Lirlts & Fiddle Tunes。全 14 トラック。Len Graham のサイン入。CD-R。2010 作。Carnagh Music)

\*LEN GRAHAM: In Full Flight B

(CD-R。副題“Traditional Irish Songs, Ballads and Lifts”。2008 作。Cranagh)

- \*MOYA BRENNAN:Heart Strings B  
 (Clannad の Moya の本作は Clannad 的優美さや夢幻さが漂うケルティック・アルバム。Moya のもとに集まったケルトの音楽家は、Fionan De Barra{ギター}、Cormac De Barra{ハープ}、Paul Byrne{ハウンドラムス}、Eamonn Galldubh、Sinead Madden{フィドル}、Sam Jackson{キーボード}、Yoshinobu Izumi{ベース}の7名。全14トラック。2008作。オランダ MW)
- \*AMY McALLISTER:String On String B  
 (トラッド&フォーク・タイプのアイリッシュ・シンガーとしてもハープ奏者としても才能のある北アイルランドのアントリムのアイリッシュ・ハープ奏者でシンガーの Amy 姫のデビュー・アルバム。シンガーとしては Cara Dillon 風に魅惑な上に、ハープ奏者としてはハープの硬質の音色が冴えた優美で気品あるハープ・サウンドを見事に爪弾き出していて、耳にすこぶる新鮮。2017作。Amy McAllister)
- \*NOEL HILL:Live In New York B  
 (両親も祖父母もコンサーティーナ奏者だったというアイルランド随一のコンサーティーナ奏者の Noel Hill の新作は、ニューヨークでのライブ。レパートリーの引き出しを多く持つ Noel の演奏は、時代も曲調も様々で、様々な表情のクレアを中心にしたアイリッシュ・ミュージックを楽しませ、舌鼓を打たせる。音の魔術師と思ってしまうほど。演奏中、観客が身じろぎもせずに聴き入っている空気感が、Noel の神がかった演奏とともに伝わってくる。2016作。Raelach)
- \*FASTA:Un Canadien Errant B  
 (カナダの“Traditional Singer of the Year”賞受賞のケベックの女性トラッド・シンガーでフィドラーの Sophie Lavoie とケベックのギタリストの André Marchand とコネマラ出身のアイルランド人イリアン・パイプス&バンジョー奏者の Fiachra O’Regan のトリオ。ケベックのトラッドとアイリッシュが混ざり合った音楽の意外に新鮮で爽快なこと！Sophie のシンギングとフィドルはケベック・トラッドの伝統の味わいを披露しつつも、音楽はアイリッシュのノリを混ぜ合わせていて、凄く魅力的で心に響いて、楽しめる音楽。2016作。Fasta)
- \*TERENCE WINCH, MICHAEL WINCH AND JESSE WINCH  
 :This Day Too B  
 (副題“Music From Irish America”。Terence Winch と Jesse Winch は、1977年に Green Linnet から鮮烈アルバム・デビューした Celtic Thunder の創設者でオリジナル・メンバー。本作は Terence の息子でアイリッシュ・フィドラーの Michael を加えたトリオとアイリッシュ仲間達[Zan McLeod, Brendan Mulvihill 他]とによる奇跡のアイリッシュ・ミュージック。Celtic Thunder のメンバーでヴォーカルだった Nita Conley Korn と Nita の娘の Eileen Estes が優しいシンギングで花を添えている。2017作。Celtic Thunder Music)
- \*ZOE CONWAY AND JOHN McINTYRE:Live In Concert B  
 (屈指のフィドル奏者の Zoë Conway と Zoë のご主人でギター奏者の John McIntyre による本ライブ盤は、優れたアイルランド音楽のと



びっぴりなライブを見せられた気分。本作は 2016 年に夫妻が行ったドイツ・ツアー音源からの全 13 トラックだが、様々なリズムと色々なトーンで魅了する Zoë のアイリッシュ・フィドルは正に絶品で、加えて、Clannad でおなじみの“Dúlamán”など三曲でヴォーカルを披露する Zoë の清々しくも哀調を帯びたシンギングも、これまた絶品。2016 作。Zoë Conway&John McIntyre)

\*FRANKIE GAVIN: Ireland ¥2790

(お宝発掘。with Arty McGlynn & Aidan Coffey. 1994 作。Ocora)

\*FRANKIE GAVIN, MALACHY BOURKE & BRIAN BOURKE

: The Master's Return - A Tribute To Paddy Killoran B

(Dé Danann の Frankie Gavin {フィドル} と F. Gavin の愛弟子、Malachy Bourke {フィドル} と Brian Bourke {ハカ) 親子のトリオによる伝説のスライゴー・フィドラーの Paddy Killoran [1904-1965] のレパートリーをフィーチャーした勢いあるアイリッシュ・フィドル・ミュージック。Malachy のフィドル自体がパワフルだが、これにスライゴー特有のアップテンポのダンス曲に加えて、まるで Frankie と Malachy が師弟対決し合うかのような激しいフィドル合戦を繰り広げるのだから、熱くならずにはいられない。全 13 トラック。2015 作。Ergodos)

\*AIDAN COFFEY WITH FRANKIE GAVIN, ALEC FINN

& COLM MURPHY: The Corner House Set B

(「デ・ダナンより良い！」と評判。シュリーヴ・ルークラの音楽を中心にした選曲の良さもさることながら、アコとブズーキの締まったリズムがベースになっていて、Frankie のフィドルも締まって、フィドルの良さが凝縮した感じだ。お年寄りばかりなのに、音楽は青春真っ只中。2016 作。Riverboat)

\*TONY REIDY: Round Tower Blues B

(世の中可笑しなおっさん SSW がいるもんだ。バンジョー、マンドリン、ギターを取っ替え引き替え、時に多重録音をしてうたう、この Tony のうたは何ともほっこり。Michael Hurley に似た雰囲気もあることはあるが、このおっさん Tony は物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで、その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるものの Johnny Duhan のような唄の響きだから、唄それ自体が心地よい。2015 作。Tony Reidy)

\*PAUL MORAN: Moran's Fancy B

(Fergal Scahill との二人組で知られるゴールウェイのパブ「クレインバー」を拠点に活動するトラッド・シンガーで、ハーモニカ奏者でダンサーの Paul Moran の多才で多彩な魅力の詰まったソロ・アルバム。Frank Harte を敬愛するという彼のリルティングを含むシンギングは、柔和なシンギングで魅力的だし、自身のハーモニカと Fergal のフィドル又はギター又はパウロンのデュエットはカッコいいし、ダンスのステップまでやってのけてしまうのだから、これはマジックとしか思えない楽しさ。お楽しみ満載の全 15 トラック。2016 作。Paul Moran)

\*CRISTY MOORE: Lily A

(Christy Moore の新作は、Christy の友達シンガー作曲の思い出の

唄を、その唄をギターの弾き語りを中心に、その思い出を振り返りながら、懐かしみ、楽しみ、そして噛みしめるようにうたったもの。ある種子守歌のようにも聞こえる穏やかな唄の数々だが、耳を澄ませば、シンギングもサウンドも表情がすこぶる豊か。静かに耳を傾けたい71歳のChristy Moore翁の天下一品の名品。w. Declan Sinnott, Jimmy Higgins, Seamie O' Dowd, Mairtin O' Connor, Cathal Heyden, etc. 2016作。Columbia)

\*TOMMY PEOPLES: Recorded At Fiddle's Hearth C

(呼吸困難の症状で現在酸素吸入器が欠かせない生活を強いられているTommy Peoplesの2005年のライヴ。場所は米国インディアナの“Fiddle Hearth”というパブ。2005年といえば“Waiting For A Call”の二年後。実演で腕に染み込ませた豊富なレパートリーの引き出しの中から、思いつくままに即座に曲を選んで演奏しているかのような音楽の自由さと孤高さは、まるで草原を自由に飛びまわる野鳥のよう。全35曲の16トラック。Tommy Peoples氏のサイン入。2016作。Tommy Peoples)

\*SEAMUS SANDS: Across Bridge B

(“Traditional Fiddle Playing”の副題が味わいを増す何とも生真面目で、美しい伝統的なフィドル音楽なのだろう。伝統一家の物語は祖父母の代から始まる。Seamusは一家の暮らしの中で親しんできた思い出の音楽1曲1曲を、まるで1曲1曲を誰かに捧げるかのように奏でている。まるで家族以外に影響を受けた演奏家として、Paddy Canny, Paddy Carty, Ben Lennon, Junior Crehan等などの名を上げている。自然なリフト感のあるリラックスした演奏は彼らの美点を受け継ぐものだろう。“A superb album”とは“BBC Radio Ulster”。2016作。Seamus Sands)

\*PATSY O CEANNABHAIN: Fear Muinte Manla C

(コネマラのPatsyは他のシャン・ノース・シンガーから敬愛されるシャン・ノース・シンガーの中のシンガー。本作は全て無伴奏シンギングだが、清澄なシンギングの数々は見事としか言いようがない。ラーサリーナでお馴染みの“Bean Phaidin”をラーサリーナのシンギングと聴き比べてみるのも楽しい。2008作。Clo Iar-Chonnachta)

\*BUA: An Spealadoir A

(米国の大型アイリッシュ・バンド。ゲーリック・シンガーのBrian O hAirtのシンギングはヴォイス・コントロールが見事で、特に静寂な味わいのシンギングはダントツに素晴らしい。加えて、フルート、フィドル、ブズーキ、イリアンパイプス、ギター、ホイッスル、バウロン、ギターなどによるアイリッシュは天下一品。ゲスト: Deirdre Scanlan {Solas}。2008作。Mad River)

\*THE GLOAMING: 2 B

(Martin Hayes, Dennis Cahill, Ialar O Lionaird, Caoimhin O Raghallaigh, Thomas Barlettから成るスーパー・アイリッシュ・グループのGloamingの二枚目。本作はMartin Hayesのアイリッシュの格調版というか、Martinの音楽の揺らぎのあるアイリッシュ・フィドルの高揚感をカラフルに彩ることで、さらに追求した音楽。

基本は Martin が奏で続けるアイリッシュ・ダンスなリズムの心地よい波のような音楽。その波のような音楽は、時にハーモナイズして、この上なく心地よい。2016 作。Real World)

\*RUNA:Live

A

(米国人アイルランド人混成のアイリッシュ系バンド、Runa の待望の五枚目は、ライブ。メンバーは変わらず Shannon Lambert-Ryan {ヴォーカル、バウロン}, Fionan de Barra {ギター、ヴォーカル、ベース他}, Cheryl Prashker {パーカッション}, Dave Curley {マンドリン、ヴォーカル、バンジョー}, Maggie Estes White {フィドル、マンドリン} の二姫三太郎五名。本ライブでは、彼らの昇り竜の勢いに溢れていて、天才的レベルの Shannon の最高のシンギング共々、音楽が輝いている。彼らのアイリッシュは雑食性があって、その雑食感が彼らの独自性を生み、音楽のパワーの源にもなっている。すべてがプロ中のプロの音楽パフォーマンスを誇っている。今、最も勢いのあるアイリッシュ系バンド。2016 作。Runa Music)

\*MARIE AGUS SEAMUS BEGLEY:Plancstai Bhaile na bPoc B

(Máire & Séamus Begley の兄妹 {姉弟?} による 1989 年のアルバムが CD 復刻。Máire & Séamus のデュエットのあるが、大半は Séamus Begley のゲーリック・シンギングとアコーディオンの演奏を中心にした構成で、今と変わらない滋味豊かな Séamus のシンギングとダンスの空気いっぱいのアコの演奏が楽しめる。ゲスト: Steve Cooney。1989/2016 作。Gael Linn)

\*SHARON SHANNON:The Acoustic Tour (2003 年。Daisy) D

\*SHARON SHANNON:The Diamond Series Box Set ¥2890

(クリスマス・プレゼント用に製作された "Sharon Shannon", "Out The Gap", "Each Little Thing" 3 枚組ボックス・セット。2007 作。Daisy)

\*SHARON SHANNON:Spellbound a

(未発表音源 6 曲を含む 21 曲入編集 CD。98 作。Grapevine)

\*FOUR MEN & A DOG:And The Band Played On C

(Cathal Hayden {フィドル}, Stephen Hayden {フィドル、バンジョー}, Gino Lupari {バウロン、ヴォーカル}, Kevin Doherty {ギター、ヴォーカル}, Donal Murphy {アコ} というラインナップの Four Men の結成 25 周年記念盤。記念盤ということで気合い十分の彼ら本来の怒濤のというか、エネルギー溢るアイリッシュを堪能させる一方で、これも記念盤ということで、ヴォーカルの Kevin Doherty の趣味の SSW/ルーツロック {The Band の "Shapes I'm In" をやっています!} も加わって、アイリッシュの嵐の中に米国音楽を紛れ込ませる構成。2016 作。HOOK)

\*FROMSEIER ROSE:Contradiction B

(スコットランドやアイルランドのフィドル音楽に影響を受けたという女性フィドラーの Fromseier Rose と米国人ピアニストの Michael Rose の二人組。Michael は縁の下の力持ちというか、脇役的立場で、主にアイルランドとスコットランドの曲を Fromseier は、優美に晴れやかに演奏する。女性的というか、ヨーロッパ的というかトラッド的な土臭さが薄いのが、清々しい。そんな中、アイ

リッシュ・シンガーの Niamh Parsons が三曲で、見事なシンギングを披露し、釘付けにする。限定再入荷。Fromseier Rose)

- \*JOSIE NUGENT: Modal Citizen B  
(Mary&Josie Nugent そして Josie Nugent&Brian Stafford の二人組で素晴らしいアルバムを発表している屈指のクレア・スタイルの女性フィドラー Josie Nugent のソロ。そのスタイルをキープしつつオリジナルなフィドル音楽を目指した新作。w. Brian Stafford, Mary Nugent, Nigel&Dianne Boullier, Geordie McAdam, Alan Burke, Sean O' Donnell, Seamus O' Kane, Mark Wilson. 2016 作。Josie Nugent)
- \*McDONNELL TRIO: It's Long Way To Tipperary C  
(フランス在住の Michael {ウォーカル、マンドリン、バンジョー、ギター}, Simon {ウォーカル、ギター、バウロン、ホイッスル他}, Kevin McDonnell {ウォーカル、アコ} のアイルッシュ・ファミリー・グループ "McDonnell Trio" による英・独・仏でうたわれた第一次大戦時の曲 13 曲。60 年代風のオソトックスなウォーカル・トリオ・スタイルのアイルッシュ・フォークで、朗々としたソロ・シンギング やコーラスで戦時の唄物語の世界へと誘う。Tipp1418)
- \*MAIRE NI CHATHASAIGH & CHRIS NEWMAN: Christmas Lights C  
(副題 "A Selection Of Carols from Chris Newman & Maire Ni Chathasaigh"。アイルランドを代表するアイルッシュ・ハープ奏者の Maire とご主人でギター奏者の Chris のお二人によるクリスマス・アルバム。Maire&Chris の二人は三人の音楽仲間、Nollaig Casey {Maire の妹。フィドル}, Maggie Boyle {フルート}, Roy Whyke {ドラムス} を迎えて、まるで自宅でクリスマス・コンサートをしているかのように暖かでハッピーなクリスマス・アルバム。ハープとギター & マンドリンの音色が輝いて聞こえる。全 16 曲。2013 作。Old Bridge Music)
- \*THE GREAT DANES: In Ireland C  
(GIRO の Anders Trabjerg {アコ} と Jonas Fromseier {バンジョー} の二人のデンマーク人アイルッシュ演奏家による本作は、古いスタイルのアイルッシュ・ミュージック。これはまるで魔法の音楽。二人が外人なのも音楽作りに良い影響をもたらしているのだろう。古いアイルッシュの特徴を外人目線の「面白い」感覚でとらえ、その部分を楽しんで演奏する…。その結果のまるで古いアイルッシュのつぼを得た演奏に、心は笑顔笑顔。忘れた頃に聞こえてくるボーンズのおどけた音も楽しい。ゲスト: Johnny "Ringo" McDonagh。2008 作。Great Danes)
- \*LORCAN MacMATHUNA: The Arrows that Murder Sleep A  
(シャンノース・シンギングの美を古代アイルランドの文芸に求め、独自のシンギングの世界を追究する Lorcan Mac Mathúna の、早くも新作。彼の作品を批評するのは失礼と思えるほど、彼の作品は彼の美意識で貫かれていて、Iarla Ó Lionáird でさえ、影が薄く感じられるほど孤高。本作は前作での共演者だった Daire Bracken {フィドル} に加え、Altan の Martin Tourish {アコーディオン} と Riverdance の Eoghan Neff {フィドル} と即興ジャズの Seán Mac Erlaine {木管楽器} が演奏を担当。2015 作。LMM)

- \*DAIRE BRACKEN & LORCAN MacMATHUNA:Preab Meadar A  
 (どの時代にも鬼才で奇才のあるアーティストがいるが、主にゲール語でうたう Lorcan は、アイルランドの伝承歌の持つ魂というか、大げさに言えば「言霊」をシンギングやリリキングの内に強く感じさせる。本作は特に600年から1600年のゲール語の詩を源泉とした自作曲とその時代の詩に曲を付けたもので、Lorcan のアイリッシュ・カルトな芳香を放つシンギングは過去に生きた人びとの魂の歌声にも聞こえる。そんな鬼才のシンギングと共演するフィドル奏者の Daire [Slide, Danú] の演奏は唄の伴奏を超えた即興的演奏で、響き合っていて、感動的。2014 作。DBLM01)
- \*GIRO:Galway International Retro Orchestra C  
 (アイルランドのゴールウェイで結成された一姫三太郎の四人組。一姫でフィドルのまよさんは日本人で、Giro のアコーディオン奏者の Anders Trabjerg の奥様。Anders はゴールウェイで長年演奏活動をしているデンマーク人。残りの二太郎はカナダ人フルート奏者の Kyle Borley とニュージーランド人クラリネット奏者の Geoff Ward。彼らが目指す音楽は20世紀はじめ頃の雰囲気音楽。この目標設定は大正解。アイリッシュもジブシーもクレズマーも北欧も「20世紀はじめ頃の雰囲気」をそれ風のレトロなサウンドで創作していて、ユニークだし、全体を通して、コミカルだったり、ホロりとさせられたり、音楽に人情味が感じられて、心はずっと笑顔。2014 作。GIRO)
- \*MARY COOGAN AND FRIENDS:Christmas A  
 (w. Joanie Madden, Jerry O' Sullivan, etc. 2001 作。Mary Coogan)
- \*LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR:The Birds Never Cease A  
 (アイルランドのウォーターフォードのSSWのLiam Merrimanが同郷のEoin O' Meachair {ハングョー、マンドリン、ホイッスル} をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。Liam自身はChristy MooreやChristie Hennessy等のアイリッシュ・シンガーが描いてきた世界や風景を意識して制作したそうで、聞こえてくる音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優しさが感じられ、気分清々しい。隠し味的に盛り込まれたアイリッシュな爽やかなサウンドが気持ち良い。2015 作。Three Rivers)
- \*ALISTAIR RUSSELL & CHRIS PARKINSON  
 :A Glass And A Mile B  
 (元Battlefield Bandのシンガーでギター奏者のA. RussellとアイルランドのMayoをルーツとするアコ奏者のC. Parkinsonによる二枚目。大半はアイリッシュ。Alistairは父親から多くのアイリッシュ・ソングを聞かされたという。Alistairの唄はBattlefield Bandの流れを引く印象だが、その流れの中でも愁いのある曲ばかりをうたっていて、何やら「心の唄」的な内容で、聴いていて、懐かしい気分になってしまう。2013 作。Glade)
- \*VINCENT CAMPBELL:The Purple Heather D  
 (二枚組。副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。Vincent Campbellは1938年ドニゴール生まれで、ドニゴールのフィドル演奏の代表者。すっぴんのフィドル演奏がたっぷりの全66トラック。P36のブックレット付。2010 作。CNF006)

- \*NOELEEN NI CHOLLA: An Mhaighdean Mhara G  
 (ドニゴールのグウィト出身で、Altan のマレドが始まりの紹介文を書いている女性シンノース・シンガーの Noeleen Ní Cholla のソロデビュー作。妖精がらみの不思議な唄や悲恋の唄などの愛唱歌をゲリック・ソングのリズムと柔和な響きをピュアに保ち、子守歌をうたう優しさで包む。伴奏は Manus Lunny, Calum Mac Colla, Martin Crossin の三名。彼らのソフトなアイルッシュ・サウンドが Noeleen の柔らかなシンギングを優しくしている。2015 作。Cló Iar Chonnacht)
- \*BULLY ACRE: The Twelve Pins G  
 (Bully's Acre を名をのる Peter Browne {アコーディオン} と Robbie Harris {パカッション} のアイルッシュの達人とダブリン在住アルゼンチンギタリストの Lucas Gonzales によるセッションにはぶっ飛んでしまった。Lucas のギターは主にフラメンコスタイルのギターで、アイルッシュには異色のサウンドなのだが、何より Peter Browne と Robbie Harris の究極のと言ってしまいたいほどのリズム遊び感覚抜群の至芸が素晴らしく、二人の至芸に Lucas の熱いギターとぶつかり合って、アイルッシュの火花を散らす。2014 作。Big Beat Music)
- \*IRISH FOLK FESTIVAL 2009 "Between Now And Then" B  
 (David Munnelly Band {Walnut Valley Bluegrass Festival のライヴ音源から 4 曲}, Niamh Parsons & Graham Dunne {2009 年 Graham Dunne 録音による新録曲 4 曲}, アイルッシュ・シンガーの Tommy O' Sullivan {2009 年 Lunasa の Donogh Hennessy 録音による新録曲 4 曲}, ケフ・ブレトンの美人フィドラー率いる Jennifer Roland Band {2009 年新録曲 4 曲} の全 16 トラック。それぞれのアーティスト/グループがそれぞれに素晴らしい。アーティスト/グループの紹介&曲目解説付。2009 作。Magnetic)
- \*HARRY BRADLEY & MICHAEL CLARKSON: The Pleasure Of Hope B  
 (副題 "Flute Music From Belfast And Beyond"。アイルッシュ・フルート奏者の H. Bradley ともう一人、Harry と同じベルファスト出身のフルート奏者 M. Clarkson によるアイルッシュ・フルート・アルバムの名盤。曲目はベルファスト、フェアナ、スライコー、ドニゴール、リトリム、ロスカモン、クリア、シュリヴ・ルークラ等などアイルランド縦断的にフルート二本で、「これがアイルッシュだぞ！」と言わんばかりの様々な表情のアイルッシュで歓喜させる。ブックレットで Ciaran Carson が最高の賛辞を寄せている。2009 作。HBMC09)
- \*SHANE McALEER: Long Time No See B  
 ("At The End Of The Day" まで Derish のフィドラーとして活躍していた北アイルランドのベルファスト出身のアイルッシュ・フィドラー Shane McAleer のソロ。退団の理由は飲酒問題。アル中だったのだろうか? 昔、イギリスの田舎町で Dervish と会ったときに彼と会ったことがあるが、今は痩せて別人。Shane の演奏は Dervish 時代のエネルギッシュな演奏とはおさらばを感じさせるもの。齢を重ねたということもあろうが、内面から湧き上がる感情のままに演奏したかのように音楽が美しい。美しいが音の根に粘着力があり、心揺さぶるたくましい美しさだ。曲目は彼の豊富なレパートリーからの選りすぐりの各種ダンス曲とアール曲そして自作のダンス曲とアール曲とから成っていて、Solus の Eamon McElholm がギター等で阿吽の良き女房役を努めている。2013 作。Shane McAleer)
- \*BRENDAN MULHOLLAND: Jean's Hill A

(Brendan Mulholland, Brendan Hendry, Paul McSherry のフルト奏者の  
ヨ。北アイルランドの伝統曲を中心にした本作は、Brendan の誠実な人柄  
がそのまま音楽となったような音楽。様々なリズムのダンス曲を凄いテ  
クニックで演奏するが、Brendan はその音楽の持つ個性をゆがめずにき  
っちりと演奏することに終始する。その几帳面さが音楽の味わい  
をまっすぐに深めている。静かな部屋で、心を集中し、演奏してる  
ような澄んだ空気感もいい。2012 作。Brendan Mulholland)

\*THE USHER FAMILY

:Traditional Singing From County Louth A

(Mary Ann Carolan {1902-1986}、弟の Pat Usher {1912-1988} そして  
いとこの Petey Curran {1896-1980} の Usher Family の 1974 年収録  
の音源から制作された貴重なアイルランド・トラッド・アルバム。全 22 曲。録音し  
たのはトラッド・シンガーの Donal Maguire。約半数は 1982 年の Topic 盤で  
広く知られる収録時 52 歳の Mary Ann の純朴で美しいシンギング。Mary  
Ann はリズムを取りながらうたってるのが、物音から知覚できる。男  
性二人のシンギングはいたっておだやか。曲目は一家が伝承してきた  
民謡。一般的に知られる伝統歌ではないが、どの唄も暖かく深い。  
2014 作。Rossendale)

\*LA LUGH: Senex Puer B

(Lá Lugh は Eithne Ni Uallachain {ウーガル、フルト、ホイッスル} と Gerry  
O' Connor {フイドル} の二人組。1998 作。フランス Sony)

\*EITHNE NI UALLACHAIN: Bilingua B

(今や伝説のグループの Lá Lugh や Cosa Gan Bhróga のシンガーの Eithne  
{1957-1999} の唯一のソロアルバム。本作のレコーディングは長い闘病から  
回復した 1997 年から 1999 年に亡くなるまでの期間に行われ、収録  
曲は全 11 トラック。本作を聴いて驚くのは、アイルランドの SSW として、クリエイ  
ティブな音楽の創造に挑んでいること。二曲目の "Meadhran  
Samhraidh" ではアイルランド・ダンス・ミュージックの躍動感を最大限に活用し、  
当時としては Donal Lunny や Bill Whelan に引けを取らぬ最前線の  
ウーガル&ダンス・ミュージックを創り上げ、三曲目の "Grief" や四曲目の  
"Lughnasa Damhsa" ではケルト風の幽玄な唄の世界を創り上げてい  
る。豊富な音楽のアプローチが自作の唄を通して、見事なアイルランド風「唄  
の花」を咲かせている 2014 作。Gael Linn)

\*AOIFE NI CHAOIMH & PAUDIE O' CONNOR

:Didnt She Dance and Dance B

(シュリーヴ・ルーラの伝統音楽に造詣の深いフイドル奏者の Aoife とアコ奏者  
の Paudie とのご夫婦コラボ。本作は二人がこれまでに一緒に演奏し  
た演奏家達と愛聴した音楽に捧げられたもので、聴き親しんだシュ  
リーヴ・ルーラのシュリーヴ・ルーラらしい音楽が生き活きと演奏されてる。  
二人は演奏することで、時空を超えて音楽の故郷へと里帰りし、先  
輩名人であり音楽の師である Padraig O' Keefe や Denis Murphy や  
Johnny O' Leary 等と心通わせているのだろう。リスナーの評価など無意  
味な一途で清く美しい音楽。ゲスト: Paul de Grae {ギター}, Ruairi  
McGorman {ベース}。2014 作。Paudie O' Connor)

\*CORMAC DE BARRA - ANNE-MARIE O' FARRELL: Duopoly C

(Clannad の Moya Brennan とも活動するアイルランドを代表するアイルランド・ハ

ハープ奏者の Cormac De Barra とクラシック・ハープ・スタイルのアリッシュ・ハープ奏者の Anne-Marie との待望の新作。前作“Double Strung”はアリッシュ・ハープ・ファンに大人気のアルバム。本作はまるでクリスマスの時期に合わせ創作されたかのような厳かな中に、美しく華やかな雰囲気にあふれた心洗われ、心おどるアリッシュ・ハープ・ミュージックになっている。使用ハープは Cormac が Salvi Egan, Salvi Aurora, Phillip Murray harp{金属弦ハープ}、そして Anne-Marie が Salvi Livia, Salvi Diana pedal harp, Colm Ó Meachair harp{金属弦ハープ}。カヴァイの各種ハープのきらびやかな音色と金属弦ハープの高貴な音色とを組み合わせ、アリッシュ・ハープ・ミュージックの究極の美を創作している。2014 作。Anne-Marie O'Farrell Cormac De Barra)

\*TONY MacMAHON & STEVE COONEY

Scaoil Amach an Pocaide - Live in Spiddal C  
(現在ハート病を患って演奏に支障を持つ Tony Mac Mahon{アコ}と Steve Cooney{ギター}の二人組による 2005 年の貴重ライブ。Tony の病気のことを知って聴くからか、本作での Tony のアコの演奏の大きさに驚かされる。と同時に音楽への並々ならぬ愛情がある曲では気持ち大らかに、ある曲では気持ち軽やかに、またある曲ではしみりと注ぎ込まれていて、いやはずっかり夢中にさせられてしまう。一曲終わるとの観客の感性がこれまた熱い。Martin Hayes が「これは、アリッシュ・ミュージックに興味を持つ誰もが所有すべき美しく、そして心底感動的なアルバムだ」と推薦文を寄せている。同感。2014 作。Raelach)

\*TEADA:Irish Traditional Music C

(Teada の貴重なデビュー作。ブックレットを留めるホッチキスに若干サビが見られます。2002 作。Ceol)

\*MARY McPARTLAN:Petticoat Loose C

(Dolores Keaneクラスのアイルランド・シンガーでアイルランド音楽界も重要人物 Mary の 2 枚目。w. Seamie O Dowd{プロデューサーでもある}, Cathal Hayden, Frankie Gavin, Mairtin O' Connor, Brendan O' Regan, Gerry O' Connor, Garry O' Brien, Johnny Ringo McDonagh, Rick Epping, etc. 2008 作。Mac P Productions)

\*COLLEEN RANEY・COLM MacCARTHAIGH:Cuan A

(ケルト系女性トラッド・シンガーの Colleen とケルト系ギター&タンバリン奏者の Colm のコラボの音楽は、Colleen の美しく芯のしっかりしたシンギングと Colm のケルティックなギター・サウンドが絶妙で、良質のブリティッシュ・フォークやアリッシュ・トラッド系音楽を奏でていて、心奪われる。ギター伴奏のケルト系の女性シンガーのアルバムとして絶品。2011 作。Cuan Music)

\*IRIS NEVINS:String Theory A

(副題“Celtic Tunes Played On Harp, Guitar&Wired Strung Harp”。(アリッシュ・ハープ兼ギター奏者の Iris Nevins のハープとギターをフィーチャーしたケルティック・ミュージック・アルバム。金属弦ハープを交えたハープの演奏もギターの演奏も中世のケルティック・ミュージックを想起させる気品ある響きを爪弾き出して、新鮮。むしろ美しいケルティック・チューンを純粋に素朴に演奏していることが、ハープ、ギターが本来持っている美しい弦の響きを引き出して、素直に美しく感じられる音楽になっている。14トラック



中、5トラックは、Linda Hickman {フルート、ホイッスル} または Doug Barr {コンサートイア} または Tom Dunne {アコ} とのコラボ。それらは朝のセッションのような清々しさが感じられて、何とも快い。不思議に聴き飽きない愛おしい音楽。2012 作。Iris Nevins)

- \*THIS IS HOW WE FLY: This Is How We Fly G  
(本作は Caoimhin Ó Raghallaigh とアイルランド人クラリネット奏者の Sean Mac Erlaine とスウェーデン人パーカッション奏者の Petter Berndalen そして米国人ステップ・ダンサーの Nic Gareiss の四人によるコラボ。Caoimhin と Sean がソロで、また二人奏でるメロディは、Martin Hayes の音楽を自由に膨らませたような音楽。アコースティック曲などは悠久の調べと化している。ステップ・ダンスのタップの音とパーカッションの音の聞き分けが出来ないが、地中で鳴り響くような音で自在なリズムを刻んでいる。Play With Music)
- \*AMELIA HOGAN: Transplants: From The Old To The New B  
(Amelia は米国人アイリッシュ・シンガーだが、凛としたシンギングは、70 年代の女性トラッド・シンガーのいくつかの名盤をホーフツさせる見事さ。そんな Amelia の唄からは、アイルランド系系アメリカ人達が、彼らの先祖や彼らの心の故郷を想う感情が込められているようにも感じられて、心に響く。素朴なギターのための伴奏というのが、Amelia の唄の質を高めているようにも聞こえる。米国から珠玉のアイリッシュ・トラッド。2013 作。Amelia Hogan)
- \*NORLAND WIND: Storm In A Teacup G  
(副題 "Music And Song From The Celtic Northwest"。Clannad タイプのケルティック・トラッドの名品。Kerstin Blodig はこれまで素晴らしいケルト風ファンタジック・ミュージックを創作してきたが、本作は新グループ {メンバーは Noel Duggan {ヴォーカル、ギター}, Thomas Loefke {ハーブ、ヴォーカル}, Angelika Nielsen {フィドル、ヴォーカル}, Henning Flintholm {キーボード、ヴォーカル} を結成し、ケルティック・グループとしてバランスの取れた音楽を創作している。サウンド面では Thomas Loefke のケルティック・ハーブと Angelika Nielsen のフィドルの効果が大きい。Clannad より Clannad らしい。Ian Melrose。2013 作。Laika)
- \*JOHNNY DUHAN: Family Album (90 作。1st。Round Tower) B
- \*JOHNNY DUHAN: Just Another Town (2nd。Bell) C
- \*JOHNNY DUHAN: Don Quixote (3rd。Bell) C
- \*THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 1  
"Young Irish Musicians Weekend" A  
(2007 年版の Vol. 1。生演奏をするミュージシャンは、James Kelly, Tommy Martin, Paddy O'Brien, Daithi Sproule そして Fintan Vallely。全 22 トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- \*THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 2  
"Young Irish Musicians Weekend" A  
(2008 年版の Vol. 2。生演奏をするミュージシャンは、Liz Carroll, Dermot Diamond, Tara Diamond, Tommy Martin そして Daithi Sproule。全 14 トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- \*THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 3  
"Young Irish Musicians Weekend" A

(2009年版のVol. 3.生演奏をするミュージシャンは、Liz&Yvonne Kane, Eliot GrassoそしてDaithi Sproule。全13トラック。CD-R。The Center For Irish Music)

\*THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 4

“Young Irish Musicians Weekend” A

(2010年版のVol. 4.生演奏をするミュージシャンは、Martin Hayes, Kevin Crawford, Randal Bayes, Daithi SprouleそしてDanny Diamond。全13トラック。CD-R。The Center For Irish Music)

\*THE CENTER FOR IRISH MUSIC LIVE RECORDING VOL. 5

“A Harvest Home” A

(2011年と2012年のライヴからのVol. 5.出演者は、Maighread Ni Dhomhnaill {3曲。内1曲はDaithi Sprouleとのデュエット}, Harry Bradley, Jesse Smith, Felix Dolan {4曲。内1曲はHarry Bradleyのソロ}, John&James Kelly {4曲。内1曲はJames Kellyのソロ}, Dave Shepherd, Sean Gavin, Brian Miller {1曲}, Jesse Smith {1曲}, Eileen Gannon {1曲}他。収録曲は15トラック。渾身の演奏とシンギングばかり。Produced by Daithi Sproule。CD-R。The Center For Irish Music)

\*LITHA: Dancing Of The Light C

(メンバーは、Aaron Jones {ヴォーカル、ベース、ギター}, Claire Mann {フルート、ホイッスル、ヴォーカル}, Gudrun Walther {ヴォーカル、フィドル、アコ}, Jurgen Treyz {ギター、トブロー、ヴォーカル}のスコットランドとドイツのピカールの組み合わせ。曲目はアイリッシュが半数近くで、バランスの取れた演奏とシンギングは、アイリッシュをベースにしつつ、音楽をさらにハイレベルな域にまで高めている。2011作。Arte)

\*CONOR QUINN & MALACHY BOURKE

:Live At The Steeple Sessions B

(ゴールウェイっ子のTonorとMalachyは幼友だちでアイリッシュ・フィドル・同志。一緒に演奏を始めたのは1992年という。本作は2011年、ダブリンのUnitarian Churchという教会でのライヴ。確かにフィドル二台の演奏なのだが、知らずに聴けば、フィドル・ソロとってしまうような二台のフィドルが一つになってしまったような音楽。二人の演奏からゴールウェイの古いフィドル・ミュージックのスタイルを感じてしまう。ゆるく、伸びやかで、ワビサビ感のある音楽。この音楽性はMartin Hayesのスタイルに近い。TonorとMalachyの、まるで「二人で一人」の飾らない音楽は僕には悠久の調べにも聞こえる。まばらな拍手が寂しいなあ。2013作。Ergodos)

\*BAIDIN FHEIDLIMI - Gael Linn Singles 1968-1980 B

(Johnstons, Sean O Se, Ro-og Breandan O Duill&Skara Brae, Triona Ni Dhomhnaill, Maighread Ni Dhomhnaill, Michael O Dhomhnaill&Donal Lunny, Dermot O'Brien他。Gael Linnの稀少音源からの全20トラック。2013作。Gael Linn)

\*DELIA MURPHY: If I Were A Blackbird B

(多くの人々に愛されたアイルランドの女性フォーク・シンガーで、民謡収集家のDelia Murphy [1902-1971]の1930年代後半から1940年代の音源からの編集盤。全21曲。セピア色の唄とのどかなアイリッシュ・ミュージックが一服

の清涼剤。2013 作。WHM01CD)

\*COMAS: Charge C

(2005 年、ベルギーから衝撃のデビュー以来長い間待った Comas の二枚目。Solas と Lunasa を掛け合わせて 2 で割ったような疾走感と流動感が素晴らしい。メンバーは Kevin Burke のいとこの Aidan Burke {フィドル}, Philip Masure {ギター、シタン、ブズーキ}, Jackie Moran {ハウロン、パーカッション} そして Sylvain Barou に代わって新加入の Isaac Alderson {フルート、リアン・パイプス} の計 4 名。ゲスト: Sylvain Barou。2012 作。Appel)

\*MAURICE LENNON: The Little Ones C

(伝統音楽一家 Lennonファミリーのフィドル名手で、若き日には Stockton's Wing で活躍した Maurice Lennon の子。父親は Ben Lennon。Charlie Lennon は叔父に当たる。Maurice は癌の病で、闘病を繰り返しているという。聴くなり何とも言えない深い味わいのあるアイルッシュ・フィドルに吸い込まれてしまった。これは至芸としか言いようがない素晴らしい演奏だ。その至芸に Charlie がリズム遊びでもするかのようにピアノで伴奏を付けているのが、何とも軽妙で楽しい。ゲスト: Ben Lennon, Brian Lennon, Garry O Briain, Noel O'Grady, Paul Roche, etc. 2013 作。Clo Iar-Chnacht)

\*LONG TIME COURTING: Alternate Routes B

(アイルッシュ/ケルティック・ミュージック・シーンに爽風を注ぐ素晴らしい女性 4 人組アイルッシュ系トラッド・グループがアメリカからデビューした。新グループだが、音楽のキャリアに裏打ちされたアイルッシュ&ケルティック・スピリットは、今が高みを誇っている。メンバーは Sarah Blair {フィドル}, Valerie Thompson {チェロ}, Liz Simmons {ギター} そして Matt&Shannon Heaton の Shannon Heaton {フルート}。総合力で、疑い無く Top Irish Group。2013 作。Long Time Courting)

\*COLM NAUGHTON: The Space Between The Notes B

(Mairtin O'Connor 一押しのアイルッシュ・バウンゾーそしてマントリン奏者の Colm のデビュー作。バウンゾーとマントリンを中心にギターとブズーキも重ね撮りで演奏する。昨今アイルッシュ・バウンゾー奏者の素晴らしいアルバムが発売されているが、Colm はそうした演奏家 + α の魅力を持った演奏家。つまりバウンゾー命でダンス曲を見事に演奏する上に、音楽的というか、心が感じられる演奏を美しく披露する。w. Jimmy Higgins, Sean Keane, Pat Coyne, Orlath Keane, etc. 本作は天国の母親 Nellie に捧げられている。2013 作。Colm Naughton)

\*SEODA GEOIL 1 & 2 C

(Gael Linn の 60 周年記念で発売された 1960 年代後半のアイルッシュ・ミュージックの名演奏家の演奏集で 2 枚組 CD。"1"収録は、Willie Clancy, John Kelly, Sean O Conaire。"2"収録は、Seamus Ennis, Sean Keane, Seosamh O hEanai {Joe Heaney}, John Joe Gannon。2013 作。Gael Linn)

\*PADRAIGIN NI UALLACHAIN: Let The Fairies In B

(Len Graham の奥様 Pdraigin の本作は、1994 年に発売された小さい子向け「子守歌」を中心にした名作 "A Stor Is A Stoirin" の姉妹アルバム。Donovan の "HMS" の世界というか、これはもう夢の世界。w. Donal O'Connor, Steve Cooney, Garry O Briain, Ronan Browne,

- Tommy Hayes, Odhran O Casaide. 全 11 曲。2012 作。Ceoltai Eireann)
- \*JOHN McEVoy: Traditional Irish Fiddle A  
 (Catherine McEvoy との共演盤“The Kilmore Fancy”や John Wynne との共演盤で知られるフィドル奏者の John McEvoy のソロ。ソロ名義だが、実質的にはゲストの共演者とのピアノ、パーカッション、フルート、コンサティーナ、アコーディオン、フィドルとのデュエット形式の音楽。共演者は Con McEvoy, Paudie O’ Connor, Jacinta McEvoy, Gay McKeon, Catherine McEvoy, John Wynn。2012 作。LAGORE002)
- \*MICHEAL O RAGHALLAIGH & DANNY O MAHONY: As It Happened A  
 (コンサティーナ名手の Micheal O Raghallaigh とホーン・アコーディオンのオール・アイランド・チャンピオン・ジャズ・バンドのデュエット。2012 作。DOMCD002)
- \*JESSE SMITH: Jesse Smith C  
 (Danu のフィドルの J. Smith のソロ。Jesse Smith)
- \*JOHN DALY: John Daly C  
 (Tommy Peoples 推薦のフィドラー。2003 作。Ossian)
- \*THE WILLIS CLAN: Chapter One – Roots A  
 (Willis 家の先祖はスコットランド系アイルランド人の移民で、米国に渡って来たのは 17 世紀初めという。Willis 家の兄弟姉妹 6 名のアイリッシュ・グループの Willis Clan の本作は、まるで初期 Solas の勢いの滅茶苦茶かつこいい。彼らはもう 5 年以上も演奏活動をしているようで、変幻自在な手馴れた演奏は抜群のりだし、Jessica の舞うように軽やかなシンギングは滅茶苦茶キュート。楽器編成はアコーディオン、フィドル、ギター、バングヨー、ホイッスル、バウロン、ステップダンス。2012 作。Willis Clan)
- \*THE OLLLAM: The Olliam a  
 (Lunasa や At First Light の創設メンバーで、アイルランド・パーカッション奏者の John McSherry と米国のアイリッシュ系バンドの Millish の創設メンバーでアイルランド・パーカッション奏者の Tyler Duncan と Millish の創設メンバーでジャズ・パーカッション奏者の Michael Shimmin のトリオ。基本的にアイルランド・パーカッションの音楽とジャズ・パーカッションの融合音楽。ケルト音楽最前線。2012 作。Compass)
- \*OIRIALLA: Oirialla B  
 (Oirialla は Nuala Kennedy {ヴァーナル、フルート}、Gerry O’ Connor {フィドル}、Gilles LeBigot {ギター}、Martin Quinn {アコーディオン} のアイルランド・スコットランド・ブルターニュの演奏達人によるスーパー・ケルティック・グループ。いやほ流石。Jamie McManamy のバンドがそのまま Nuala Kennedy に移ったような一歩引いた深みのある余裕のケルティック・ミュージックを披露する。Nuala のシンギングは Karan Casey 風で、これまた味わい深い。2012 作。Lughanasa Music)
- \*GERRY O’ CONNOR & GILLES LE BIGOT: In Concert C  
 (La Lugh の Gerry O’ Connor {フィドル} とブルターニュ屈指のギター奏者 Gilles との 2005 年 12 月ブルターニュでのライブ CD。「変幻自在、緩急自在な」という言葉が相応しい Gerry の空前絶後のアイリッシュ・フィドルの渾身の名演奏が矢継ぎ早に展開される。2006 作。Lughanasa Music)
- \*JERRY O’ REILLY: Havoc In Heaven A  
 (伝統歌を含め、フォークソングの素晴らしさを教えてくれる好盤。アルバム・タイトルにもなっている一曲目は Frank Harte 没後に Robbie O’ Connell が作詞作曲した唄で、天国に行った Frank Harte が天国にいる著名

歌手と愉快な唄の共演をする唄。アイリッシュ・シンガーのみならず、ジョン・レノンやプレスリーやジャニス・ジョップリンまで登場する。Jerry の唄はストーリーに徹していて淡々。聴き手は一言一言に耳を澄ませ、心は笑顔。本作は 2010 年に天国に召された Jerry の奥様の Anne に捧げられている。全 15トラック。2012 作)

\*BARRY GLEESON:Tough Night

A

(Barry Gleeson はアイルランドを代表するヴァン・クラフト・シンガーだが、本作は Barry のユニークなアイリッシュ・ソングが物語の内容によって、柔軟に変化する。これはジョーク好きのアイルランド人が大いに好みそうなユーモアと皮肉の滲み溢れる伝統的民衆歌の数々。アイルランド人が歴史上最も嫌ってる人物の一人があのかもウエル。「かもウエルの呪い」ほか全 16 曲。w. Kevin Konneff, The Voice Squad, Peter Eades, Grace Toland, Lauralee Curten, etc. これは楽しく素晴らしいアイルランドのフォーク・ソングの伝統文化。2012 作。Gleeman)

\*PHIL CALLERY:Landscape Of The Past

A

(Voice Squad のシンガー、P. Callery のソロ。Voice Squad 自体がイングランドのファミリー・グループの Watersons や Copper Family のスタイルのアイリッシュ・トラッド・シンキング・グループだったが、Phil のソロもアイリッシュ・トラッドのスタイルではなく、1970 年前後のブリティッシュ・フォーク・リヴァイヴァルの影響を受けたイングリッシュ・トラッドの、それも極めて上質のシンキング・スタイルを保った品格のある無伴奏シンキングなのだ。“Lough Erne Shore”, “The Green Fields Of Canada”, “Johnny I Hardly Knew Ye”他全 12 曲。Rosa)

\*DONALL DONNELLY:Tremolo

B

(カウンティ・タイロン出身のフィドル奏者、D. Donnelly の、既に大物級のデビュー作。見開きジャケット全面がフィドルのデザイン。それも年季の入ったフィドル。こういう意匠だけで音楽の質の高さが推し量れる。音楽は正にその通りで、フィドルの重ね録りやハイプとの競演やハンズ・オンとの競演等様々な試みを行って、フィドルをフィーチャーしたアイリッシュ・ミュージックの魅力とその世界を堪能させる。2012 作。Donall Donnelly)

\*FREEWHEEL:Fergal Scahill, Sean McCarthy & David Howley A

(フィドル名手 Fergal Scahill とリアン・パイプス名手 Sean McCarthy にギター若造 David Howley をリズムに加えた新スーパー・アイリッシュ・グループによる本作は、手腕の利いた演奏で、テンポのよいスリングで気分爽快なアイリッシュ・ダンス曲とテンポを緩めたユーモラスなアイリッシュ・ダンス曲をほぼ交互に演奏する。スーパーだからと言って、突っ走るだけではなく、ユーモラスな曲も演奏すところが、彼らの本物度を示している。2012 作。Freewheel Music)

\*GERRY HARRINGTON:At Home

B

(ケリ南部から登場のフィドラーの Gerry Harrington の本作は、Padraig O'Keefe や Julia Clifford&Denis Murphy や Jackie Daly 等のスリーヴ・クルーの音楽と Michael Coleman やトニゴールの Neil Neillie 等の 100 年近く前のフィドルの偉人の音楽。この渋さと味わいの力は物凄い。渋さの中に美しさのある見事なアイリッシュ・フィドル・ミュージックだ。2012 作。Gerry Harrington)

\*LAURA TANSEY AND JOHN DALTON:The Harp And The Lark A

(クラシック畑の著名シンガーの L. Tansey によるアイルランドの名曲集。伴奏は J.

Dalton のハープ。クラシック畑の音楽はあまり興味をそそられないのだが、彼女のか細くて涼やかな Laura の唄は流しっぱなしにしていると、不思議と心地よい。本当に肌に心地よい涼やかな風のような唄なのだ。ハープも「しゃかりき」ではないのが、唄の雰囲気合っている。「庭の千草」や“Star Of The County Down”他、超有名曲ばかり全 15 曲。Harplark)

\*DOIMNIC MacGIOLLA BHRIDE & GRIOGAIR LABHRUID

:Guailibh A Cheile

B

(シンガー・ソングの Doimnic とスコットランドの若手がリック・シンガーで各種バグパイプ奏者の Griogair による Gaelic Song の絶品の共演・競演。伴奏は各種バグパイプ、クラサッハ{スモール・ハープ}、フィドル、ギター。必聴!!!2010 作。DUN1001)

\*JOHN SPILLANE:A Rock To Cling To

C

(欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の唄が始まるや、いつも John Spillane 一色。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O' Sullivan, etc. 2011 作。EMI)

\*PADDY O' BRIEN:Mixing The Punch

A

(Sailor's Cravat で、アイリッシュ・バンドとして、ヴォーカルを含むグループ音楽の楽しさを示した Paddy だが、本作は 1947 年製のボタン・アコーディオンによる妙技を軽妙に披露した。2011 作。New Folk)k

\*THE SAILOR'S CRAVAT:The Sailor's Cravat

A

(Paddy O'Brien のアイリッシュ・グループ。メンバーは Paddy に Tom Schaefer {フィドル}, Paul Wehling {フズキ}に Paddy の奥方の、シンガーで小説家{の Erin Hart の四名。Sean Ryan や Paddy Fahy 等のフィドル奏者作曲のダンス曲等を含む様々なダンス曲を多様な表情で楽しませる。もうこれは熟練の技、あうんの音楽としか言いようのない螺旋模様を描いて舞うアイリッシュ・ミュージックの連続。ヤッホー! の一枚 2011 作。New Folk)

\*NORAH RENDELL & BRIAN MILLER:Wait There Pretty One

A

(アイルランドのテレビ局 TG4 の Irish Traditional Music Awards で “Vocalist Of The Year” 賞授賞の Outside Track のヴォーカル&アイリッシュ・フルト奏者の Norah とギター奏者の Brian Miller の 2007 年のアルバム。親しみやすいアイルランドの伝統歌の数々をうたう Norah のシンキングは誠実で優しく、またまっすぐで、春の涼やかな風のように気持ちよい。ロバート・バーンズ 収集のスコットランドの子守唄 “Oh, Can Ye Sew Cushions?” で静かに幕。Two Tap)

\*ALLAN KELLY GANG:Small Towns And Famous Nights

A

(アコーディオン名手の Alan Kelly が Alan Kelly Gang {メンバーは Tola Custy =フィドル, Steph Geremia=フルト, ホイッスル, ヴォーカル, Tony Byrne=ギター} を結成。このギャング達の音楽はアイリッシュ・ダンス曲のコアの音楽をしっかりと踏まえた上で、スコットランドやニューファンドランドの音楽までも取り込みながら、新時代のアイリッシュ・ミュージックとして、ヴォリュームのある音楽を創作。2011 作。BBM006)

\*SEAN O RIADA:O Riada Sa Gaiety

B

- (リマスター再発盤。w. Ceoltoiri Chualann&Sean O Se. 1970/2005 作。  
Gael-Linn)
- \*SEAN MOLONEY:Where's Me Cap A  
(Patrick Kavanagh の小説“Tarry Flynn”の音楽劇の音楽。全曲ア  
リッシュ・フルト奏者の S. Moloney による各種ア  
リッシュ・ダンスの形式、それも  
1930 年代の形式の音楽で、フルト、フイ  
ドル、ホイッスル、バウロン、ピアノによる  
ダンス音楽は、現在のア  
リッシュの大元の音楽とい  
うか、基本形で、素朴で、  
ある種牧歌的。1930 年代に米  
国で一世を風靡したア  
リッシュ・アメリカンのア  
リッシュとは対照的な、別の  
意味で大衆的で、健やかな  
ア  
リッシュだ。2011 作。Sean  
Moloney。CD-R)
- \*TARAB:Tarab A  
(Emer Mayock [フルト、ホイ  
ッスル、リアン・パイプス],  
Nick Roth [サクソ他],  
Francesco Turrisi [アコ他],  
Kate Ellis [チェロ], Robbie  
Harris [ハカ  
ン]の五人組が織り成す音  
楽は、まるで Andy Irvine  
& Davy Spillane の“East  
Wind”のような音楽。これ  
が 20 年前の発売だった  
ら、驚異の凯尔特+東欧音  
楽の異種融合音楽。2011  
作。Taquin)
- \*SEAN TYRRELL・KEVIN GLACKIN・RONAN BROWNE  
:And So The Story Goes... A  
(S. Tyrrell はフォーク・シン  
ガーとして、K. Glackin は  
フイドル奏者として、R.  
Browne はリアン・パイプ  
ス奏者として、既に名声  
を得ているアイルランド  
の巨人三人によるライ  
ヴ。ゲスト:Fergus Feely,  
Jimmy Fitzgerald, Paul  
O'Driscoll。全 15 トラック。  
P20 のブックレット付。  
2011 作。Clo Iar-Chonnacht)
- \*SEAN TYRRELL:The Best Of Sean Tyrrell B  
(14 曲収録のベスト盤。  
Featuring Davy Spillane。  
2004 作。ARC Music)
- \*SKIRM & DEZI DONNELLY:Welcome B  
(二枚発見。副題“Live In  
Hamburg”。1995 作。  
Magnetic Music)
- \*JOHN SPILLANE:The Wells Of The World(Hummingbirds) C  
\*JOHN SPILLANE:Will We Be Brilliant Or What?(2002 作。EMI)C  
\*JOHN SPILLANE:Hey Dreamer C  
(ジャン・ヌース・スタイル  
の歌唱法を活かしたリス  
ミカルで粘着力のあるシ  
ンキングの呪術力ある  
不思議な快感に加えて  
一人遊ぶようなリスミ  
カルなギターの美しさ  
と楽しさは一度聴くと  
病みつきになる。2005  
作。Hypertension)
- \*ADRIAN McAULIFFE & CATHAL FLOOD:Between The Strings A  
(ケリー・バンド・チャン  
ピオンの Allow Ceili Band  
のバンド奏者の Adrian  
のバンド奏者をジャズ、  
レゲエ、ロックにも影  
響を受け、かつア  
リッシュ・ミュージック  
に造詣が深いア  
リッシュ・ギター奏者  
の Cathal が控えめな  
がら遊び心あるギ  
ターでバックアップ  
したり、お付き合い  
したりの、心ウキウ  
キなバンド&ギ  
ター音楽。Adrian の  
バンドの演奏は天才  
的。2011 作。AMCF01)
- \*ROBERT DOYLE:Life In Shadows A  
(ダブリンのフィン  
ガー・スタイルのギ  
ター奏者でシン  
ガー、R. Doyle の  
デビュー作。Pierre  
Bensusan の門下生  
という彼のギ  
ター弾き語りは  
一種独特の  
世界を創作。  
Bert&John を  
モデルとする  
彼独特な、  
深いところ  
でア  
リッシュ・  
スピリット  
がみなぎる  
フォーク  
ギター  
ミュージック  
の世界を  
生み出し  
ている。2011  
作。Robert  
Doyle Music)
- \*FLYING TOADS:In Stitches A

(Flying Toads はイギリスのセックスで結成された紅一点の Val Marciandi がヴォーカルの 4 人組アイリッシュ・グループ。楽器編成はリアン・パイプス、スモール・パイプス、シタン、ブス、キ、フィドル、ホイッスル、フルート、コンサティーナ等。彼らのアイリッシュはどこか古い。ヴォーカルが女性になった Planxty のようなアイリッシュ。2010 作。Flying Toads)

\*BRONGAENE GRIFFIN: Three Colours Ginger A  
(アイリッシュ・フィドルを Kevin Burke に師事という米国ポートランド [K. Burke の居住地] の女性アイリッシュ・フィドラーのデビュー作。アイリッシュ・ギター名手の Gerry O'Beirne [元 Patrick Street] があの手この手で、バックアップしていて、実質的には二人のデュオアルバム。Kevin は二曲でセカンド・フィドル＋ヴォイスで応援。丁寧な演奏が実に気持ちいい。2010 作。Loftus)

\*DES CAFFERKEY: Achill Air A  
(生まれるとすぐに演奏を始めたというホイッスルとフルート [両楽器でチャンピオン奏者] の演奏家で Mayo School Of Music でアイリッシュ・フルートの教師を務めるホイッスルとフルートをフィーチャーした Des の二枚目。本作は収録曲全曲伝統曲。スロー・テンポな曲を前半にまとめるといふ曲順で、前半で心身をほぐし、すっかりリラックスさせ、中盤から躍らせ、舞い上がらせるという構成。職人ワザ。w. Peter Browne, Paul McGrattan, Tony Byrne, Trevor Hutchinson, Laoise Kelly, Gerry O' Connor, Tony Quinn. Azteca)

\*THE HIGH KINGS: Live In Ireland B  
(Finbarr Clancy [Clancy family], Martin Furey [Finbar Furey の息子], Brian Dunphy [Sean Dunphy の息子] そしてブロードウェイのスター、Darren Holden の 4 人組 High Kings の期待通りの圧巻ライヴ。泣き笑いの名曲が全 16 曲。2011 作。Celtic Collections)

\*FUTURE TRAD COLLECTIVE: Future Trad Collective A  
(Michael McGoldrick [リアン・パイプス、フルート、ホイッスル他], Ian Fletcher [各種ギター、プログラミング], Andy Dinan [フィドル/オール・アイルランド・フィドル・チャンピオン] のニュー・プロジェクト。彼らが創作する音楽はケルト音楽の持つリズムとエキゾティシズムをワールド・ミュージック感覚で膨らませた音楽。w. Maeve Mackinnon, Dermot Byrne, etc. 2011 作。Vertical)

\*SHAUN DAVEY: Voices From The Merry Cemetery a  
(アイルランドの作曲家の Shaun Davey プロデュースによるアイルランドの音楽家 [Liam O'Flynn, Rita Connolly, Rod McVey, Neil Martin, Noel Eccles, Gerry O'Beirne] とルーマニア・トランシルヴァニアの男性コーラス・グループ & 楽団との文化交流音楽。本作は 2009 年と 2010 年にルーマニアの教会で行ったコンサートのライヴで、アイリッシュ・サウンドによる東欧風男性コーラスは、古代ケルト教会音楽のようでもある。音楽の深いところで通底し、響きあう。2010 作。Tara)

\*MICHELLE O'BRIEN & LAOISE KELLY: The Wishing Well C  
(クレア出身で Tommy Peoples の教え子フィドラーの Michelle と天下一品のアイリッシュ・ハーブ奏者 Laoise とのライヴ。2010 作。Laoise Kelly)

\*BLACK ROSE ROISIN DUBH: White Rabbit A  
(アメリカの男性 5 人組アイリッシュ・バンド。楽器編成はリアン・パイプス、ホイッスル、フィドル、ギター、バウロン、シタン、ベース、ヴォーカル。彼らのアイリッシュは独特。ダブルリネズ系統のアイリッシュ・フォークをベースに野太く、エネルギーに満ちた演奏で大砲級



アイリッシュ。音楽の力とうねるドライブ感そして勢い任せのリリィングとヴォーカルはもの凄い。これほどロッキングなエレクトロに満ち溢れたアイリッシュは久しぶり。2010作。My Back Room)

\*BRENAN BEGLEY & CAOIMHIN O RAGHALLAIGH

:A Moment of Madness A

(Seamus Begley の弟で、Boy Of The Lough の一員でもあり、屈指の伝統的アコーディオンの奏者兼トラッド・シンガーの B. Begley と現在最も意欲的な活動を行っている伝統的アイリッシュ・フィドル奏者の C. O Raghallaigh のお二人による本作はまるでアイリッシュ・ミュージックの酸いも甘いも知り尽くした天才奏者二人が余裕綽々と音楽で遊び魂を響かせたような音楽。これ以上の伝統的アイリッシュ・ミュージックは望めない。2010 作。An Irish Music Net)

\*JOE DERRANE WITH JOHN McGANN:Grove Lane a

(既に 1940 年代後半から米国のボストンのレベルでレコーディングを行っている米国のアイリッシュ・アコーディオン奏者の大物 {Irish Echo's で 2010 年のトップ 伝統音楽家に選出} の軽やかな 2010 作。2010 作。Compass)

\*COLIN FARRELL:On The Move A

(両親がアイルランド人で、イギリス・マンチェスター生まれのフィドル奏者でホイッスル奏者の恵まれたデビュー作。プロデュースを含め、ホイッスルの先生の Michael McGoldrick が全面協力。で、生まれた音楽は Michael McGoldrick スタイルの疾走感のある今日のアイリッシュ。John Joe Kelly, Donald Shaw, Ewen Vernal, Peter Browne, Andy Seward 等の超一流の共演者達の名演奏に乗っかって滑るようにフィドルを奏で、ホイッスルを吹く、何とも気持ち良さそうに。Colin Farrell Music)

\*STEVIE DUNNE>About Time A

(副題 "Traditional Musiv On Tenor Banjo"。アイリッシュ・バンジョーの音楽は同じアイリッシュをやっても、どこかのどこかでユニークな風合いを奏で出すが、この Stevie なるバンジョー奏者による本デビュー作は実に楽しい。ピクニックな気分の音楽や上品そうだとぼけた感じの音楽やアクロバティックなはや弾きで楽しませ躍らせる、かと思えば、今度はテナーギターに持ち替えて、スマートな音楽で気分を爽やかにしてくれる。いやなこと、一切吹き飛ばししてくれる魔法の音楽。2010 作。Stevie Dunne)

\*GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY

:Yesterday I Saw The Earth Beautiful B

(元 Patrick Street で SSW で名ギター奏者の Gerry O' Beirne の本作は Rosie Shiplay なる無名の女性フィドル奏者 Rosie とのデュオ・アルバム。デリケートな感受性に富む G. O' Beirne の唄とギターは個人的に思い入れがあるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる唄に惹き込まれる。2010 作。Shipwhistle)

\*BIRKIN TREE:Virginia C

(Birkin Tree はイタリアのアイリッシュ・グループだが、アイリッシュ・フルート、フィドル、イアーン・パイプス、ギター、フズーキ、ホイッスル、ピアノ、パーカッションにより構築されるアイリッシュは憧れの気持ちも加味されてか、艶やか。Martin Hayes&Dennis Cahill が 2トラック、7 曲で共演。2010 作。Felmay)

\*BILLY CLIFFORD:Echoes of Sliabh Luachra B

(父母が John&Julia Clifford で叔父が Denis Murphy という生え抜き

の伝統音楽一家に生まれ育った Billy Clifford のスピンオフのフルト・トリオ。Billy はシュリーヴ・ルーク地方の音楽スタイルに、豊かなヴァリエーションを加え、新たなローカル・ミュージックを創作している。数曲で Maire Begley のピアノとの共演もあるが、フルトの演奏が手に取るようにストレートに鑑賞できる演奏は見本演奏、記録演奏としても貴重。他の楽器とセッションで演奏したら、ウキウキするようなダンス曲ばかり。2010 作。WMC001)

\*BRIAN FINNEGAN: The Ravishing Genius Of Bones A  
(Flook のホイッスル&フルト奏者 Brian Finnegan の二枚目は彼ならではのハ行くと型破りな柔らかな感性に裏打ちされた万華鏡的笛アルパム。アイルッシュ・スタイルの奏法を駆使しつつも、アイルッシュ・ミュージックの枠を超えた生き生きとした音楽は正に職人技で、超絶。w. Ed Boyd, Ian Stephenson, Aidan O'Rourke, John Joe Kelly, Danien O'Kane, Leon Hunt, etc. 2010 作。Singing Tree)

\*TWO TAP TRIO: A Night At The Fair A  
(アメリカのアイルッシュ・トリオ。メンバーは Norah Rendell {彼女はカナダ人。フルト、ヴァーナル}, Nathan Gourley {フィドル}, Brian Miller {ギター、フズーキー}。アイルッシュ・フルトの Norah は Catherine McEvoy やアイルランド・パイプ奏者の Mickey Dunne に教えを請い、Brian Miller は本場で腕を磨いたという。あの手この手で様々なアイルッシュを楽しませる。2010 作。Two Tap)

\*LE CHEILE: Out Of The West A  
(70 年代、ロンドンで結成されたアイルッシュ・ミュージック・グループ "Le Cheile" の 70 年代ロンドンのアイルッシュ・ミュージックの smokey な空気たっぷりの演奏はアイルランド・本土の古いアイルッシュや 20 世紀初めのアイルッシュ・アメリカンのアイルッシュの味わいを発散する。2010 作。White Hart Music)

\*DAN POSSUMATO: Pulling Out The Stops B  
(米国のポートランドとアイルランドのクリアそしてアラスカで収録されたアイルッシュ・アコーディオン奏者の D. Possumato の本作はクリアの音楽や古い世代が好んだ古い音源のアイルッシュ・チューン等を自分の心の音楽のように愛情深く、しかし音楽は今日のアイルッシュのように洗練と演奏する。w. Kevin Burke, Mick Mulcrone, Teresa Baker, Quentin Cooper, etc. 2010 作。Old Box)

\*BRENDAN O' SULLIVAN: Took A Notion B  
(Riverdance のフィドルの Brendan はかれこれ 30 年間フィドルを演奏し、20 年間プロ活動をしているという。彼の音楽のイメージは凄い。アイルッシュは古臭いのから泣き節、かつまたスマートなものまでばっちり演奏し、その上にブルーノの曲やラテン音楽や化粧したアイルッシュなどを盛り込む。新たなアイルッシュの創作意欲と音楽のアプローチが多過ぎて、一枚の CD には収まらなかった、という印象の色とりどりのアイルッシュ。2010 作。Brendan O'Sullivan)

\*WILLOS: Dirt Tracks B  
(2001 年結成で、本作が五枚目というアイルランド、アメリカ、イタリアの五人編成アイルッシュ・グループ。アイルッシュはフィドルの Stephanie Martin のみで、ヴァーナルの Alice Reynolds はアメリカ人で、ジャズ・ヴァーナルの教師でもある。ギター&フズーキー、フルト、バウロンの男性三名はイタリア人。彼らのアイルッシュは耳に新鮮。一癖ある音を加えたり、地中海サウンドを響かせたり、かと思えば、コアのアイルッシュで楽しませたりもする。w. Liz Carroll, John Doyle.

- 2009 作。Soundsdifferent)
- \*SEAN MAGEE:Ye Fiddlers Fate B  
 (オール・アイルランドのフィドル部門の若きチャンピオンのデビュー作。フェアマナの古い希少曲を多く含む本作はどこか涼やかな風が感じられるアイルッシュ・フィドルの快作。CD-R。2009 作。Sean Magee)
  - \*TOMMY KEANE:The Piper's Apron a  
 (アイルランドの音楽者 T. Keane の 91 年作。w. Brendan O' Regan [フラスキー、ギター], Jacqueline McCarthy [コンサーティナ], Henry Benagh [フィドル], Paul Grant [ギター], Tommy Hayes [ハウロン], Michael Hynes [フルート]。Mulligan)
  - \*FRANK HARTE:The Essential Irish Series Volume 4 A  
 ("Dublin Street Songs Through Dublin City" {副題 "Traditional Songs Of The Dublin Streets"} と "There's Gangs Of Them Digging {"Songs Of Irish Labour"}" の二枚組セット。2009 作。Daisy)
  - \*TOMMY HAYES:An Ras a  
 (再発。ハウロン奏者 T. Hayes の 91 年作。w. Alaisdair Fraser, Nuala Ni Dhomhnaill, Micheal O Dombhnaill, Brian Dunning, etc. Mulligan)
  - \*TOMMY HAYES:An Ras (英国盤。Mulligan) B
  - \*BRENDAN O' REGAN:A Wind Of Change a  
 (再発。フラスキー、マントリン、ギター奏者の 92 年作。w. Maire Breathnach, Tommy Hayes, Gerry O' Connor, Ciaran Tourish, Alec Finn, etc. Mulligan)
  - \*A FEAST OF IRISH FOLK C  
 (CD+DVDセット。CD は Sharon Shannon, Bothy Band, De Dannan, Mary Black, Emmylou Harris and Dolores Keane, Frank Harte, Donal Lunny&Christy Moore, Seamus Begley&Jim Murray, Danien Dempsey 等の編集盤で、全 13 曲。DVD は PAL 方式で全てライヴ映像で、Robbie O'Connell/Mick Moloney/Jimmy Keane の "Kilkelly", Mary Black/Emmylou Harris/Dolores Keane の "Sonny", Sharon Shannon & Band の "Blackbird", De Dannan の "The Humours Of Galway" の全 4 曲。2009 作。Daisy)
  - \*FAOI BHLATH:Faoi Bhlath C  
 (2006 年に "Sheridan's Guesthouse" というアルバムを発表したフィドル奏者の Dave Sheridan とアイルッシュ・フルート奏者の Ciaran Somers と Arcady, Orion, Kornog 等参加のフルート・ニュー人ギター/コンサーティナ奏者 Nicolas Quemener の見事なスーパーセッション。w. Johnny "Ringo" McDonagh。絶品。2009 作。Folkroads)
  - \*BLACKTHORN BAND:The River That Runs Below A  
 (Blackthorn Band はイギリスのアイルッシュ・グループ。メンバーは Sarah Mooney [フルート、ギター], Philippe Barnes [フルート、ギター、ホイッスル], Alex Percy [フィドル、ギター], Fergus McClelland [ヴァーナル、フラスキー他], Mannie McClelland [ヴァーナル、コンサーティナ、ハウロン]。レパートリーは Noel Hill & Tony Linnane や Jackie Daly や Mary McNamara 等の演奏から学んだ曲等を清々しい演奏で楽しませる。2008 作。Hobgoblin)
  - \*ELEANOR SHANLEY:The Essential Irish Series Volume 3 A  
 (Eleanor Shanley & Ronnie Drew "El Amor De Mi Vida" と Eleanor

Shanley&Ivan Leparr“Another Day's Journey”の二枚組セット。2009作。Daisy)

- \*JACKIE DALY:Music From Sliabh Luachra ¥1790  
(Topic より紙ジャケ、リマスターにて再発。77 作。Topic)
- \*JACKIE DALY:Music From Sliabh Luachra B  
(1977 年のデビュー作。Ossian{アイルランド盤})
- \*JACKIE DALY:Many's A Wild Night B  
(w. Maire O'Keefe, Paul De Grae, Garry O Brian.95 作。Gael-Linn)
- \*ANDY IRVINE・PAUL BRADY:Andy Irvine・Paul Brady a  
(アイルランド・トラッドの名盤中の名盤。アイルランド・トラッドを中心にした伝承歌を Andy と Paul はそれぞれベースとギターの緊張感ある絶妙な伴奏で伝承歌の世界へと誘う。ゲスト:Donal Lunny&Kevin Burke.76 作。Compass/Mulligan)
- \*ANDY IRVINE・PAUL BRADY:Andy Irvine・Paul Brady B  
(76 作。Mulligan{英国盤})
- \*MATT MOLLOY:Matt Molloy a  
(Produced by Donal Lunny&Michael O Domhnaill.名盤。76 作。Compass/Mulligan)
- \*MATT MOLLOY:Matt Molloy(76 作。Mulligan{英国盤}) B  
(76 作。Mulligan{英国盤})
- \*MATT MOLLOY:Stoney Steps(88 作。Claddagh) B
- \*MATT MOLLOY・PAUL BRADY・TOMMY PEOPLES  
:Matt Molloy・Paul Brady・Tommy Peoples B  
(78 作。Mulligan{英国盤})
- \*MATT MOLLOY, SEAN KEANE, LIAM O'FLYNN:The Fire Aflame B  
(92 作。Claddagh)
- \*KEVIN BURKE&MICHEAL O DOMHNAILL:Promenade B  
(79 作。Mulligan{英国盤})
- \*KEVIN BURKE&JACKIE DALY:Eavesdropper B  
(w. Paul Brady, Philip Begley, Conal O Grada, etc. 81 作。宝物。Mulligan{英国盤})
- \*MARIA McCOOL:Doagh~An Odyssey Of Irish Song B  
(北西ドノコールのGweedore というゲール語地域の女性ゲールク・シンガーの二枚目。北ドノコールに位置する半島 Doagh をタイトルにした本作は、ゲール語による伝統歌を中心にした選曲で、アイルランド・ソングの美しさを損なうことなく、ナチュラルな歌唱法で美しくうたったもの。伴奏はピアノ。全 16 曲。2009 作。Ambush)
- \*DONAL MURPHY:Happy Hour B  
(この Donal なるアコ奏者のデビュー作はアコパティックなアコ演奏の妙技が矢継ぎ早。ホルカ、リール、スライド、ホーンパイプ、ジグ、エア、ラグそして混ぜこぜ音楽を材料にアイルランド・ダンスのリズムの多彩さと愉快さを見せつける。共演者は S. Cooney, Tim Edey, Brian McGrath そして Donal の家族。まさにタイトルを裏切らないひと時が過ごせますよ。2009 作。DMR001)
- \*GARRY SHANNON・ORFHLAITH NI BHRIAIN:Lose The Head A  
(Sharon Shannon の兄さんでフルト奏者の Garry と女性アイルランド・シンガーの Orfhlaith の 89 年作が CDR にて再発。w. Sharon Shannon, Mary

Shannon, Majella Shannon, Steve Cooney, Eoin O'Neil, etc. GTD Heritage)

- \*JO CHEDGEY: D'Anam Alainn G  
(アイルランド・ウォーターフォード出身の女性SSWのJoの本作は、アイルランドへの美しい想いが素直に唄になっていて、彼女の想いや思い出と一緒に旅する気分。化粧っ気なしのスツピンの唄が唄の鮮度を落とすことなく聴き手の心に沁み渡る。現在英国暮らしのJoが、故郷を離れて輝きを増すJoの珠玉の唄たちだ。2009作。Osmosy)
- \*KARL NESBITT: Vistapoint B  
(フルト&ブズ奏者のK. Nesbittのオーセンティックなアイリッシュからコンテンポラリーなアイリッシュまでアイリッシュを色々と料理したり、創作したりする。アイリッシュ専門のアレンジャーやサウンド・プロデューサーとして才能を有する若きクリエイターだ。Niall Connollyがヴォーカルの“Don't Be Blue”とJohn Spillaneがヴォーカルの“Ag an gCoisir”はSSWファンには絶句の二曲。ここで聴くNiallとJohnの唄は同一人物のように似ている。w. John Spillane, Niall Connolly, Mairead&Sean Nesbitt, Edel McLaughlin, Marien Collins, Seamus Gibson 他。Karl Nesbitt。2009作)
- \*THE SAW DOCTORS: Live At The Melody Tent B  
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctorsのライブ・アルバム。録音は2008年の夏。unrigクラスの魂揺さぶるフォーク・ロック。2008作。Shamtown)
- \*THE SAW DOCTORS: All The Way From Tuam (1992作。Shamtown) B
- \*THE SAW DOCTORS: Villains? (2001。Shamtown) B
- \*BUA: An Spealadoir A  
(米国の大型アイリッシュ・バンド。ゲーリック・シンガーのBrian O hAirtのシンギングはヴォイス・コントロールが見事で、特に静寂な味わいのシンギングはダントツに素晴らしい。加えて、フルート、フィドル、ブズーキ、イリアンパイプス、ギター、ホイッスル、バウロン、ギターなどによるアイリッシュは天下一品。ゲスト: Deirdre Scanlan {Solas}。2008作。Mad River)
- \*MARANNA McCLOSKEY: At Last G  
(Cara Dillonの前のOigeのヴォーカルだったMarannaのソロ。MarannaはCara風の、ジャンルを超えて魅する透明感ある声質を持ちつつ、伝統音楽回帰的足元の確かさを持った大型アイリッシュ・シンガーだ。w. Eric Rigler {イリアン・パイプス、ホイッスル}, Brian Baynes {ギター、ピアノ、マンドリン他}, etc. 2008作。McCloskey Music)
- \*DAN MILNER B  
: Irish Pirate Ballads And Other Songs Of The Sea  
(アイルランド系アメリカ人で、アメリカのFrank Harte的存在の伝統歌収集家であるヴァン・クラッド・シンガーのD. Milnerの本作にはアイルランド移民の物語のほか海賊や奴隷の歌など様々な物語が収録されている。w. Mick Moloney, John Doyle, Joanie Madden, Tim Collins, Susan McKeown, Brian Conway, Gabriel Donahue, Robbie O'Connell。P38のブックレットには詳細なバリエーションと曲目解説等が収録。2009作。Smithsonian Folkways)
- \*DENIS CAREY: Moving On G  
(Brook McGuire Bandのピアノ奏者で作曲家のD. Careyの2枚目。本作

は全曲本人の自作曲だが、どれもが17曲を含め、アイルッシュ・ダンス曲の形式の音楽。彼の音楽性はケリー・バンド風から Riverdance 風まで、アイルッシュの土俵の上で幅が広い。そういう意味では、アイルランド人の心を揺さぶる音楽と言えよう。Mairtin O' Connor, Zoe Conway, Tommy Hayes, Paul Brock, Manus McGuire, Enda Scahill, Kenneth Rice, Fergal Scahill 等共演者も充実で、あの手この手のアイルッシュ・ミュージックで聴き手を誘惑する。(2008 作。Five Line)

\*SEAMUS CREAGH:Tunes For Practice D

(遺作となったウエーラン・アイルッシュ・フィドルの S. Creagh によるアイルッシュ・フィドル奏者の練習用模範フィドル演奏集。2 枚組。テンポの遅い曲調からノーマルな演奏へと徐々にテンポを上げてゆく。演奏のツボを教えるどれもが正調アイルッシュ・フィドル節だ。チューニングの話を除き全 36トラック。2009 作。Seamus Creagh)

\*THE NAVVY'S WIFE D

(2 枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イギリス人トラッド・シンガーの Mick Ryan によるフォークドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイルッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)

\*LUKE PLUMB:A Splendid Notion C

(オーストラリア人でスコットランドで活躍中の Shooglenifty のマンドリン奏者の Luke のソロはパーカッション奏者の James Mackintosh のサポートを得たマンドリン音楽。Luke は鮮やかなマンドリンの演奏で主にアイルッシュの著名伝統曲["Trip To Sligo", "O' Carolan's Receipt", "Sporting Nell", etc] に新たな命を吹き込んでいる。James のハウロンの音域を倍にしたようなパーカッションの自在で多彩なリズムも楽しい。2008 作。Shoogle)

\*MOLLY'S REVENGE:The Western Shore a

(John Doyle がプロデュースの本格的ケルティック・ミュージック・アルバム。アンサンブルの醍醐味と味わいはアイルランドやスコットランドのトップ・バンドの風格。ダンス曲を中心とした演奏のみならず、2 曲でヴォーカルを取る Moira Smiley のしっとりとして凜としたシンギングが素晴らしい。Paul Brady の名唱でお馴染みの"I Am A Youth Included To Ramble"はトラッド・ファンを骨抜きにする。北米に凄いバンド。2008 作。Molri Music)

\*MOYA BRENNAN:Heart Strings B

(Clannad の Moya の本作は Clannad 的優美さや夢幻さが漂うケルティック・ミュージック・アルバム。Moya のもとに集まったケルトの音楽家は、Fionan De Barra{ギター}、Cormac De Barra{ハーフ}、Paul Byrne{ハウロン、トラムス}、Eamonn Galldubh, Sinead Madden{フィドル}、Sam Jackson{キーボード}、Yoshinobu Izumi{ベース}の 7 名。全 14トラック。2008 作。オランダ MW)

\*PAUDIE CONNORS & JOHN O' BRIEN:Wind & Reed B

(ケリー出身のアコ奏者 Paudie とダブリン出身のリアン・パイプ奏者 (Mick O' Brien は John の兄) によるアコとパイプによるアイルッシュ。リズム・パートは Jim Murray が担当。事実上 J. Murray も加えたトリオの音楽。アコもパイプもよくうたい、踊る。2008 作。PBCD1976)

\*KATHLEEN BOYLE:An Cailin Rua B

(Dochas そして現在 Cherish The Ladies のアコ奏者 Kathleen のソロ。  
Kathleen はアイルランドのドニゴールが故郷でスコットランド育ち。ドニゴール中心  
のアリッシュや自作のダンス曲を中心にスコティッシュの、もっともガリック・ソ  
ングやメロディなど、スコティッシュ・トラッド・ファンの琴線に触れるトラッド曲を数曲  
加えた構成。w. J. Fowles, H. Talbot, Jenna Reid, Ali Hutton, Kevin  
O'Neill, Martin O'Neill, Eamon Doorley, Hughie Boyle。2008 作。  
Kathleen Boyle)

- \*GRIANAN: The Maid Of Erin A  
(スパー・ケルプの Grianan の 93 年作。ムハ-は P. J. King に Tommy  
Peoples, Siobhan Peoples, Paul McSherry, Kevin Crawford,  
Martin Murray, Pat Marsh, John Maloney そしてダブリンのゲリック・ソ  
ング-の Niamh De Burca。余裕綽々の愁いを含みつつ、勢いのあるア  
リッシュにただただ酔うのみ。Niamh De Burca の英語一曲、ゲル語一  
曲の清涼なシンキングは芳香を放っている。93 作。GDR。West Winds)
- \*BILLY McCOMISKEY: Outside The Box a  
(こどもの頃から近所のアリッシュ・センターでアリッシュ・ミュージックに親しんで育  
ったヴァン・ホタン・アコーディオン奏者の Triam II {1995 年} 以来の新作。w.  
John Doyle {プロデューサーでもある}, Liz Carroll, Joannie Madden,  
Athena Tergis, Mick Maloney, etc. 2008 作。Compass)
- \*MARK DUNLOP: Islands On The Moon C  
(アイルランドの Antrim 生まれでスコティッシュ・トラッド・バンドの Malinky のソガ  
-兼ホイッスル&ハカロン奏者の M. Dunlop の初ソロ。2008 作。Greentrax)
- \*JIMMY DINNY O GALLCHOIR: Scal Ag Gabhail Don Cheol D  
(1921 年ドニゴール生まれのゲリック・ソング-の 1950 年代と 1970 年代の音  
源の曲に、数曲、Altan の Mairead に Manus Lunny, Stephen Campbell  
が重ね録りしてお化粧をして編集された 9 曲入。2008 作。  
Clo Iar-Chonnachta)
- \*THE GATHERING A  
(ライヴ。Martin Hayes, Andy Cutting, Karen Tweed, Carlos Nunez,  
Kathryn Tickell, Brendan Power, Niall Keegan, Alisdair Fraser,  
etc. 97 作。Real World)
- \*MUSIC AT MATT MOLLOY'S (92 作。Real World) A
- \*JOSIE SHEAIN JEAIC: Connemara ~ Sean-nos (Cinq Planetes) C
- \*MATT CRANITCH: Give It Shtick B  
(w. Dave Hennessy, Eoin O Riabhaigh, Brid Cranitch, Mick Daly,  
Colm Murphy。88/92 作。Ossian)
- \*MANUS McGUIRE: Fiddlewings (2006 作。Shelly River Music) B
- \*KEVIN BURKE: If The Cap Fits a  
(紙ジャケット、リマスターにて再発。w. Micheal O Domhnaill, Paul Brady, Donal  
Lunny, Jackie Daly, Peter Browne, Gerry O'Beirne。78 作。Compass  
/Mulligan)
- \*BOTHY BAND: 1975 (77 作。Compass/Mulliagn) a
- \*BOTHY BAND: Out Of The Wind Into The Sun a  
(77 作。Compass/Mulliagn)
- \*BOTHY BAND  
: Old Hag You Have Killed Me (76 作。Compass/Mulligan) a

- \*BOTHY BAND:Afterhours (78 作。Compass/Mulligan) a
- \*JAMIE SMITH, COLETTE O' LEARY & BRIAN KELLY  
:The Long Notes B  
(パツジョーとマントリンのオール・アイルランド・チャンピオンの Brian Kelly に Bumblebees のアコ奏者の Colette O' Leary にスコットィッシュ・フィドル奏者の Jamie Smith の今ロンドンで活動する 3 人組。Sharon Shannon と Lunasa が大推薦。2008 作。The Long Notes)
- \*DAMIEN DEMPSEY:The Rocky Road B  
(パトラッドが自分のルーツと言うアイリッシュ・フォーク・ソング - の Damien の本作は彼が 1990 年代にダブリン周辺のパブで良くうたったというトラッドの名曲やパブで人気だった唄をうたったもの。w. Sharon Shannon, Eamonn DeBarra, John McLoughlin 他。2008 作。Clear)
- \*STEPHANIE MAKEM & TIARNAN O DUINNCHINN:Ceol Is Píob B  
(素晴らしい女性ゲリラック・トラッド・ソング - の Stephanie とリアン・パイパーの Tiarnan のお二人によるゲリラック・ソング とパイブ演奏。w. Steve Cooney {ギター他}, Paul Meehan {ギター}, Feargal Murray {キーボード}。Tommy Peoples が推薦名文を寄せている。CB001)
- \*PAUL McGLINCHY:Unearthed B  
(1990 年代に 3 度オール・アイルランドのフルート部門チャンピオンの座に輝くタイロンのフルート奏者 P. McGlinchey の見事なフルート・ソロ。ロスカモンフルート奏者 Josie McDermott 作のリール曲で軽快に幕開けする本作はアイリッシュ・フルートのマジックとでも呼びたい演奏の早業で、軽快さと鮮やかさで唸らせる。アイリッシュ・フルートの名盤中の名盤。2008 作。PMG001)
- \*FRANK CASSIDY:Nil Gar Ann B  
(副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。1900 年トニコール生まれ {1971 年没} のフィドル奏者 F. Cassidy の 1946~67 年の貴重音源から 35トラック。2008 作。CNF)
- \*BEN LENNON & TONY O' CONNELL:Rossinver Braes C  
(Lennon Family のグエラン・フィドル奏者の B. Lennon とリムリック出身でオール・アイルランドのコンサティーナ・チャンピオンのコンサティーナ奏者の T. O' Connell のデュオアルバム。2008 作。Clo Iar-Chonnachta)
- \*DARREN CROSSEY:Coming Home ¥2090  
(アメリカ New Folk から発売されたアイルランド系フォーク・ソング - の 2003 年作。Christy Moore や Barry Moore 等のアイリッシュ・フォークやトラッド曲を Moore 兄弟タイプ のフォーク調で唄う。面白いのは大半の曲で唄とハモルように入っている Sean Conway のティン・ホイッスル。変拍子多彩で、空翔けるホイッスルの音色に心も飛ぶ。Sean Conway のティン・ホイッスルだけでも聴く価値あり。2003 作。New Folk)
- \*ACROSS THE WATER C  
(旧譜。“Irish Music From England”。1994 年のヨーク大学 Traditional Music Festival でのライヴ。演奏は Andy Cutting, Brendan Ring, Karen Tweed, Julia Clifford, John Carty, Brian Rooney, Luke Daniels, Niall Keegan 他。全 20トラック。94 作。Nimbus)
- \*DEAR OLD ERIN'S ISLE C  
(旧譜。“Irish Music From America”。1992 年のヨーク大学 Traditional Music Festival でのライヴ。演奏は Kevin Burke, Eileen Ivers,



Seamus Egan, Liz Carroll, Jimmy Keane, John Williams, Tom Doherty, Seamus Connolly, Brendan Mulvihill, Billy McComiskey 他。全 20トラック。92 作。Nimbus)

- \*FIL CAMPBELL: Songbirds B  
(RTE 制作の 5 人の女性ソング - {Delia Murphy, Bridie Gallagher, Margaret Barry, Mary O'Hara} の人生のドキュメンタリー・テレビ番組 "Songbirds~The First Ladies Of Irish Song" からトラッドの名曲中心の 15 曲。w. Sean Keane, Tommy Sands, Steve Cooney, Laoise Kelly, Rod McVey, Bill Shanley, Steve Wickham, etc. 2005 作。Glenshee)
- \*SEAN TYRRELL: The Best Of... B  
(“The Orchard”や“Cry Of A Dreamer”等名作を発表してきた SSW の中の SSW の S. Tyrrell の 14 曲中半分が新録のベスト盤。2004 作。ARC Music)
- \*COLM O'DONNELL: Heart Strings ¥1500  
(スライターの名トラッド・ソング - Colm O'Donnell の 2 枚目はトラッドに限らず、何と V. Morrison の “Irish Heartbeat” や Hank Williams の “The Singing Waterfall” 等も含むタイトル通り“琴線に触れる”愛唱歌集。全 13 曲。w. Nollaig Casey, Mellisa Elliotte, etc. 2001 作。Sound)
- \*TEAC A BLOC B  
(副題 “Music From The Show”。同タイトルのショーの音楽だが、これが馬鹿にできない。Danu のアコ奏者の Benny McCarthy に Pat Ryan {フィドル}、John Nugent {ギター}、Des Dillon {ハモニカ} によるショーの音楽 {ゲリラック・ソング} 1 曲と英語の唄 1 曲を含む) はダンサブルでわくわくするアイリッシュ。Benny のアコと Des のハモニカが本当に楽しい。2004 作。Openear)
- \*BOHOLA: Bohola a  
(Jimmy Keane {アコ}、Sean Cleland {フィドル、ヴァイオリン}、Pat Broaders {ブラス、ヴォーカル} から成るソングの Bohola の 2002 年作。Shanachie)
- \*TAKUJI TAMURA & YUKIO KASHIWAGI: Strange But True ¥2380  
(勿論日本人アイルランド音楽家の中でアイルランドのトップ・プレイヤーと同じ目線で評価できる数少ないアイルランド音楽演奏家だ。Anders Trabjerg との 2004 年作の “For The Same Reason” も素晴らしかったが、ギター、ブラス {フィドルも} 奏者の Y. Kashiwagi との本作はアイリッシュ・フィドル・ミュージックの芸術の域を感じさせるもの。アイルランド音楽の心を弓一本でここまで演奏できる音楽家はアイルランドにもそうはいない。感動覚めやらず...。2007 作。Takuji Tamura & Yukio Kashiwagi) &
- \*FRANKIE GAVIN, RICK EPPING & TIM EDEY  
: Jigging The Blues a  
(F. Gavin の今度のお楽しみ会は F. Gavin 主宰のアイリッシュ・ミュージック・パーティーにブルース・ハープ奏者の R. Epping が殴りこみ? した印象。パーティーは大盛況。二人の盛り上がりをあの手この手で支える T. Edey のギターの技も聴きもの。ギターにだけ耳を傾けても楽しい。F. Gavin はまだしばらくはアイリッシュの未踏のハイウェイを突き進めそう。2008 作。Greenrux)
- \*FRANKIE GAVIN・PAUL BROCK: Omos Do Joe Cooley B  
(英題 “A Tribute To Joe Cooley”。1986 作。Gael-Linn)

- \*JIM McKILLOP:Tribute G  
 (父親の John McKillop に捧げたホーンパイプと亡き John Cunningham の  
 霊に捧げた“John Cunningham's Farewell”のメロで幕開けするフ  
 ィドルの巨匠 Jim の本作はアイルッシュとスコティッシュを中心にハンガ  
 リーのダンス曲  
 や Ry Cooder に捧げた“Yellow Roses”など様々なスタイルの演奏で  
 楽しませる。一曲一曲が Jim の思い出の曲。全 30 曲で 23トラック。w. Pat  
 Conroy, James Quinn。2007 作。The Online Music School)
- \*CORA SMYTH:Are We There Yet? B  
 (Lunasa の Sean Smyth の妹で“Lord Of The Dance”, “Feet Of  
 Flames”, “Celtic Tiger”のフィドル奏者の Cora の本作は色彩感ある  
 アイルッシュ・フィドル・ミュージックかな。2008 作。W. EDGE1)
- \*ARMAGH PIPERS CLUB “40th Anniversary Album” D  
 (2 枚組 CD。上記パイプ・クラブの 40 周年記念アルバム。ディスク 1 が 21トラッ  
 ク、ディスク 2 が 20トラックの計 41トラック収録。奏者は Brian Finnegan,  
 Gillian Vallyely, Niall Vallyely, Barry Kerr, Martin Meehan,  
 Leo McCann, Caoimhin Vallyely {プロデュースでもある} 他。P16 のブ  
 ッklet付。2007 作。Armagh Pipers Club)
- \*SARAH McQUAID:When Two Lovers Meet C  
 (英国で人気が高まってめでたく再発。アイルッシュ・ギターでシンガーの Sarah  
 の本作を改めて聴くとトラット・シンガーとして優美な芳香を醸してい  
 て、うっとり。w. Niamh Parsons, Trevor Hutchinson, Gerry  
 O'Beirne, John McSherry, Rod McVoey, etc. 97 作。Sarah McQuaid)
- \*BILL WHELAN:The Connemara Suite B  
 (全曲 Riverdance の作曲家の Bill Whelan の作曲。演奏は Irish  
 Chamber Orchestra とソリストで参加する Zoe Conway {フィドル}, Colin  
 Dunne {ダンス・パーカッション}, Michelle Mulcahy {ハープ}, Morgan Crowley  
 {ヴォーカル&リルティング}, Bill Whelan {リルティング} による音楽。チェンバ  
 ー・オーケ  
 ストラの音楽の中に伝統音楽を組み込んだ壮大なコネマラ組曲。2007 作。  
 Tara)
- \*BOYS OF THE LOUGH:Midwinter Live A  
 (Cathal McConnell, Dave Richardson, Brendan Begley, Malcolm  
 Stitt, Kevin Henderson から成る Boys による 2006 年 12 月のクリスマス〜  
 冬のムードいっぱい心温まるライブ盤。全 15トラック。2007 作。Lough)
- \*GRANNE HAMBLY:Golden Lights And Green Shadow C  
 (アイルッシュ・ハープの第一人者。2003 作。Klang Welten)
- \*GRANNE HAMBLY:Between The Showers C  
 (アイルッシュ・ハープの第一人者。2005 作。Granne Hambly)
- \*GRANNE HAMBLY:The Thorn Tree C  
 (アイルッシュ・ハープの第一人者。2006 作。Granne Hambly)
- \*JANET HARBISON AND THE IRISH HARP ORCHESTRA  
 :A Christmas Collection A  
 (多くのアイルッシュ・ハープ奏者を世に送り出している Janet Harbison の  
 門下生オーケストラとゲストによるクリスマス音楽を中心にした巖かで華やか  
 なクリスマス音楽会的音楽。ハープ・アンサンブルのみならず、ハープ伴奏による  
 女性ギター・ソングやオール・アイルランド・チャンピオン級の若手パイプ奏者やフィドル  
 奏者もフィーチャーし、アイルッシュ・ミュージックの魅力を網羅的に展開する。ある

- 種 Chieftains 的。全 16 トラック。2006 作。Janet Harbison)
- \*SHARON SHANNON: Spellbound a  
(未発表音源 6 曲を含む 21 曲入編集 CD。98 作。Grapevine)
- \*SHARON, GAVIN, McGOLDRICK, MURRAY: Tunes B  
(アイリッシュの達人達による見事なセッション集。皆が帰るべき音楽の土俵の上で伸び伸びとアイリッシュ。実はグループの要はハカッシュなギターで熱風を浴びせるギターの Jim Murray。2005 作。Daisy)
- \*FRANK HARTE: Daybreak And A Candle-End B  
(Accompanied and produced by Donal Lunny。87 作。FoeTain)
- \*FRANK HARTE&DONAL LUNNY: My Name Is Napoleon Bonaparte A  
(F. Harte&D. Lunny のナポレオンにまつわるバラッド集。2 枚組で全 26 曲。音楽自体は素朴で、バラッドの魅力がそのまま味わえる仕上がり。P54 の解説書付。価値ある労作。2001 作。Hummingbird)
- \*THE LIFE AND WORKS OF W. B. YEATS D  
(2 枚組。read by Jim Norton, Denys Hawthorne, Nicholas Boulton and Marcella Riordan。2002 作。Naxos)
- \*TIM DENNEHY: A Thimbleful Of Song (96 作。Sceiling) B
- \*TIM DENNEHY: The Blue Green Door (2002 作。Sceiling) B
- \*JAMES KELLY, PADDY O' BRIEN, DAITHI SPROULE  
: Traditional Music Of Ireland (95 作。Shanachie) a
- \*BRIAN McNAMARA: Fort Of The Jewels C  
(ご存知リトムの伝統音楽一家 McNamara Family のリアン・ハイツ奏者の抜群のヨ。今現在彼ほどアイリッシュ・スピリット高く、体に染み込んだとしか思えない自然な抑揚を保持したリズム感で、この魂ある楽器を演奏できる奏者はいない。リアン・ハイツ・アルバム最高峰。2004 作。Drumlin)
- \*GERRY O' CONNOR: Time To Time a  
(4 Men&A Dog のアイルランド屈指のバンド奏者のヨ。w. Bill Whelan, Brendan O' Regan, Tommy Hayes, Mairtin O' Connor, Steve Cooney, Camilla Dorsey, Maunus Lunny。CD-R。91 作。Mulligan)
- \*TOMMIE CUNNIFFE: Unbuttoned C  
(ロスカモン出身のアコ奏者のデビュー作。クリアとゴールウェイ近辺の曲が多いが、初めて聴く Tommie のアコはテクニックのことは解らないが、飛び跳ねるリズムの一音一音が絶え間のないメロディーとなって気持ちよく滑空する。楽器は違うがコンサーターの Micheal O Raghallaigh やホイッスルの Brian Hughes くらい一人職人芸。2007 作。TommiECunniffe)
- \*LORCAN MacMATHUNA: Rogaire Dubh B  
(素晴らしいシャン・ノース・シンキング・アルバム。今日の伝統志向の極上のアイリッシュ・サウンドをシャン・ノースに採り入れ、ある種芸術的で、彼独自の繊細で叙情的なシャン・ノース・シンキングの世界を創作。w. Helen Lyons {ハープ}, Caoimhin O Raghallaigh {フィドル、ホイッスル}, Mick O' Brien {リアン・ハイツ}, Conor Lyons {ハウロン}, Jane Hughes {チェロ}。2007 作。Lorcan)
- \*SHAY MICHAEL&MARTIN BLACK: What A Time B  
(ゲスト: Mary Black。95 作。Dara)
- \*GIORRAIONN BEIRT BOTHER: Giorraionn Beirt Bother B  
(ウォーターフォードのゲールタム地区のミュージシャンとシンガーによる健やかなアイリ

ッシュ・セッションとシンギング。セッションの合間で、ゲリック・シガーの Aine Ui Cheallaigh や Clancy Brothers の Liam Clancy が素晴らしいゲリック・シンギングを披露。CDR。2006 作。Iontaisi)

- \*JIMMY CROWLEY: The Boys Of Fairhill G  
(コークのトラッド・シガーでブラス・キ奏者 J. Crowley の 77 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。w. Chris Twomey, Johnny Murphy, Mick Murphy, Jolyon Jackson, Micheal O Domhnaill。Produced by Micheal O Domhnaill。77 作。CDCR001)
- \*JIMMY CROWLEY&STOKERS LODGE: Camp House Ballads G  
(コークのトラッド・シガーでブラス・キ奏者 J. Crowley の 79 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。Christy Twomey, Johnny Murphy, Mick Murphy, Eoin O Riabhaigh, Micheal O Domhnaill, Greg Walsh, Philip Begley。Produced by Micheal O Domhnaill。CDCD002)
- \*JIMMY CROWLEY: Some Things Never Change G  
(コークのトラッド・シガーでブラス・キ奏者 J. Crowley の 81 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。Bill Whelan, Brian Galnan, Christy Moore, Declan Sinnott, Des Moore, Dessie Reynolds, Eamonn Campbell, Keith Donald, Mandy Murphy, Mick Hanly, Philip Begley, Tommy McCarthy, etc. Produced by Bill Whelan。CDCR003)
- \*CHRISTY O' LEARY: The Northern Bridge G  
(副題 "Songs & Tunes From Ireland and Scandinavia"。w. Tim O'Leary, Maire Ni Chathasaigh, Chris Newman, Richard Curran。97 作。Old Bridge Music)
- \*LIVE RECORDINGS FROM THE WILLIAM KENNEDY PIPING FESTIVAL (2000 作。William Kennedy Piping Festival) C
- \*JESSE SMITH: Jesse Smith (Jesse Smith) C
- \*TOMMY HAYES: An Ras (91 作。Mulligan) C
- \*GERALDINE MacGOWAN & FRIENDS: Reconciliation。94 作。CBM)
- \*SEAN McALOON: Stor Piobaireachta C  
( "Piping From The Archives ~ 1"。Na Piobairi Uilleann)
- \*WHITE RAVEN: The Water Is Wide C  
(Kathleen Dineen {ソプラノ、ハーフ}、Robert Getchell {テナー}、Raitis Grigalis {バリトン} の女性一名と男性二名のヴォーカル・トリオ "White Raven" の 1 枚目はシャン・ノースを含む伝承歌中心の選曲と Kathleen の 清楚な美声が光る巖かで雅なヴォーカル・アルバム。2005 作。Blasker Music)
- \*RON KAVANA: Irish Ways ¥5780  
(CDブック型 4 枚組。副題 "The Story Of Ireland In Song, Music And Poetry"。6 年以上かけて R. Kavana が編纂したアイルランドの古代から今日までの歩みを歌や音楽や詩等で辿ったアイルランドの音楽と歴史の CD と本。122ページの本は紀元前 9000 年から 2006 年までのアイルランドの年表付。2007 作。Proper)
- \*KATHLEEN O' SULLIVAN: Born On St Patricks Day A  
(London Lasses の 2 代目魅惑のシガーの Kathleen の無伴奏ソロ。家庭でアリッシュ・トラッド / ハラッドに親しむ恵まれた環境もあって選曲の豊かさと共に Kathleen のシンギングは他の新人アリッシュ・シガーを寄せ付けぬほど、柔らかにコブシが利いて美しく、芯があり孤高。曲目解説

- 付。2003 作。Lo La)
- \*SEAN O SE:Irish Heritage B  
(w. Davy Spillane, Nollaig Casey, Donal Lunny, Des Moore, Niall Martin, Enda Walsh。Outlet)
- \*CRUINNIU:Live In Corofin B  
(CDR。2005 年に結成されたという若き 7 人組 [女性 3 名と男性 4 名] トラット・バンドのフレッシュなデビュー作。2006 年 3 月に開かれた Corofin Traditional Festival でのライブ盤。2006 作。RRCD003)
- \*NORTH GREGG:And They Danced All Night A  
(コークのバリバリのアイリッシュ・トラット・バンド。Sliabh Luachra のホムル数曲等 C. Leary のアコをカメにセッションで鍛えたライブ感とジャンプ力ある演奏で釘づけにする。Produced by Niall Valley。99 作。Magnetic)
- \*THE MAPLE LEAF:The Maple Leaf A  
(副題 "Irish Traditional Music From Boston"。Jimmy Noonan [フルート], Chris McGrath [フィドル], Michael Sharrock [ブラスキー], Ted Davis [ギター] のトリオ。2001 作。Windjam)
- \*MOZAIK:Live From The Powerhouse C  
(Andy Irvine, Donal Lunny, Bruce Molsky, Nikola Parov, Rens Van Der Zalm から成るスーパー・グループ Mozaik のデビュー作は 2002 年オーストラリアでのライブ。2004 作。Hummingbird)
- \*ANDY IRVINE:Rude Awakening (91 作。Green Linnet) a
- \*ANDY IRVINE:Way Out Yonder A  
(旅するフォーク・シンガー Andy の感性の瑞々しさが発揮された静かな大傑作。w. Steve Cooney, Liam O'Flynn, Rens van der Zalm, Maire & Cormac Breatnach, Declan Masterson, etc. 2000 作。AK)
- \*SKYLARK:Light And Shade (92 作。Claddagh) A
- \*MAIRE WALSH:The Red Box B  
(2003 年と 2004 年のアコーディオンのオール・アイルランド・チャンピオン。ダンス曲を中心にした選曲で、確かなリズムに裏打ちされ演奏は、酸いも甘いも知ったヴェテラン・アコ奏者の余裕さえ感じさせる。2005 作。Owenglen)
- \*DAVY SPILLANE:Shadow Hunter (90 作。Tara) B
- \*DERVISH:Live At Johnny Fox's A  
(全 14 曲。初期 Dervish のハブでの名ライブ。2006 作。Doonaree)
- \*DERVISH:The Boys Of Sligo (デビュー作。Sound) C
- \*CIARAN MacMATHUNA'S THE TOUCH OF THE MASTER'S HAND C  
(数十年間、RTEラジオの人気番組 "Mo Cheol Thu" の詩の朗読とアイリッシュ・トラットがセットの音楽を 16トラック収録の編集 CD。静かに詩の朗読と音楽に耳をお傾け下さい。ラストはクリスマスの詩と音楽。音楽は Dordan, Liam O'Flynn, Paddy Glackin with Donal Lunny, Rita Connolly, Josie McDermott, Kieran Collins, Aine Ni Dhuill, etc. 1995 /2005 作。RTE)
- \*SEAN SMYTH:The Blue Fiddle a  
(Lunasa の Sean のソロ。w. Brenda Smyth, Cora Smith, Vinnie Kilduff, Steve Cooney, Jim Higgins, Charlie Lennon, Mairtin O' Connor, Brendan O'Regan, etc. 93 作。Mulligan)

- \*THE VERY BEST OF IRISH LOVE SONGS ¥3000  
(3枚組セット。48曲入。2003作。Pegasus)
- \*PADRAIGIN NI UALLACHAIN:Ailleacht (Beauty) A  
(アイルランドのヴェテラン・トラッド・シンガーの Padraigin 女史の本作はゲールによる自作曲集。歴史ロマンや空想的物語等で伝承歌の美しい薫りを追求したかのような至福のゲーリック・ソング・アルバム。w. Iarla O Lionaird, Steve Cooney, Laoise Kelly, etc. ゲール語原詞&歌詞英訳&曲目解説付。2005作。Gael-Linn)
- \*IARLA O LIONAIRD: Invisible Fields ¥1500  
(ゲール語の唄の神秘性や叙情性や情感を高揚した意識の中で抽出し、Iarla 流の純粋性の高いゲール語の結晶音楽を創作し続ける Iarla だが、本3枚目はその結晶度がかつてなく高い。Iarla にしか創作できない独自のゲーリック・ソングの世界だ。2005作。Real World)
- \*OSNA: Osna (99作。Celtic Note) B
- \*SEAN O RIADA: Ceol An Aifrinn/Aifreann 2 D  
(Sean O Riada の“Ceol An Aifrinn”{69年作}と“Aifreann 2”{70年作}がデジタル・リマスターにて再発。特殊パッケージ。69/70/2005作。Gael-Linn)
- \*CLANNAD: Beginnings A  
(“The Best Of The Early Years”。クラドの初期音源からの2枚組編集CD。全31曲。贈り物用かな?2008作。Music Club)
- \*CLANNAD: Magical Ring ¥1500  
(ボーナス曲1曲含む11曲入。特殊パッケージ。83/2003作。BMG)
- \*CLANNAD: In A Lifetime C  
(ボーナス曲8曲付2枚組ベスト盤。全26曲。2003作。BMG)
- \*ENYA: The Celts (87作。WEA) ¥1780
- \*ENYA: Watermark (88作。WEA) ¥1780
- \*SINEAD LOHAN: No Mermaid (1998作。Grapevine) ¥1780
- \*FINBAR&EDDIE FUREY: The Dawning Of The Day ¥1780  
(先駆的アイルッシュ・トラッド・グループの68~72年の音源からの編集CD。全20曲。今聴いても鮮烈。Planxtyの先輩格。98作。Castle)
- \*HECTOR ZAZOU: Lights In The Dark C  
(ラーサーナ・ファン必聴。ラーサーナに加え、リヴァークのリスト、Katie McMahon、シャン・ノース・シンガーでありSSWのBrenda Mayorの女性ゲーリック・ヴォーカル・トリオによるケルトの深き神秘性漂う絶句のアルバム。霊的なものさえ覚える奥深いサウンドと心奪われる魅惑の女性シンキングだ。本作のテーマは「アイルランド聖歌の起源を探る旅。w. 坂本龍一, Carlos Nunez, Peter Gabriel, Kristen Nogue, Thierry Robin, Hossam Ramzay, etc. 98作。フランスDetour)
- \*BRINGING IT ALL BACK HOME D  
(ご存知91年BBC制作TVドキュメンタリーのサウンドCDで原盤に未発表曲3曲加えた36曲収録の2枚組。Donal Lunny, Dolores Keane, Hothouse Flowers, Emmylou Harris, Mary Black, Sharon Shannon, Paul Brady, Mary Custy, Luka Bloom, Davy Spillane, Elvis Costello, Micheal O Suilleabhain, Richard Thompson, Waterboys and more! 91/2000作。Hummingbird)

- \*SEAN KEANE: All Heart No Roses (93 作。CBM) C
- \*SARAH&RITA KEANE: Once I Loved B  
 (ご存知 Dolores Keane の叔母の Sarah&Rita のデビュー作がめでたく  
 CD 復刻。姉妹のソとユニゾンで唄われる北東ゴールウェイ地方のゲール語を  
 含む伝承歌の数々は聴けば聴くほど味わいのある名唱ばかり。  
 "Sail Og Rua" 他全 11 曲。不滅の名盤。69/2006 作。Claddagh)
- \*DOLORES KEANE: There Was A Maid (78 作。Claddagh) B
- \*DOLORES KEANE&JOHN FAULKNER  
 : Broken Hearted I'll Wander (79 作。Mulligan) C
- \*DOLORES KEANE&JOHN FAULKNER  
 : Farewell To Eirinn (80 作。トイツ Wundertute) C
- \*DE DANNAN: Hiberinian Rhapsody (96 作。Shanachie) a
- \*DE DANNAN: Welcome To The Hotel Connemara B  
 (2000 作。Hummingbird)
- \*ALEC FINN: Blue Shamrock A  
 (廃盤。デ・ダナンのオリジナルメンバーで屈指のフス・キ奏者による唯一のソ  
 ロ。フス・キとティン・ホイッスルとのデュエットによるアイルランド 哀愁のメロディー集。  
 "Sally Garden", "The Water Is Wide" ほか全 10 曲。94 作。CBM)
- \*SEAN CANNON: The Roving Journey Man D  
 (70 年代アイルッシュ・トラッドの名盤。エイツを含むアイルッシュ・ソングの甘みは格  
 別。77 作。Kissing Spell)
- \*DEREK BELL: Carolan's Receipt (75 作。Claddagh) A
- \*DEREK BELL: Musical Ireland (83 作。Claddagh) A
- \*KATHLEEN LOUGHNANE: Harping On B  
 (今のアイルランドで彼女ほど伝統的アイルランドのハープの奏法を継承し、様  
 々なダンス曲やオカロンや 17-18 世紀のハープ曲を新鮮なアレンジで愛情深  
 く演奏できるハープ奏者はいないだろう。w. Alec Finn, Sean Ryan,  
 Cormac Cannon, Sharon Shannon, Seamus Begley {1 曲素晴らしいノ  
 ドを披露}, Mary Bergin, Jacqueline McCarthy, Martina Goggin,  
 etc. 2002 作。Reiskmore Music)
- \*KATHLEEN LOUGHNANE: Harp To Heart B  
 (3 枚目。ハンティング・コレクションからのハープ曲と伝承曲からの 15 曲。彼女  
 は独自のアレンジでハープ・ミュージックの定番一曲一曲に息を吹き込むよ  
 うにスピリット高く、愉快地に上品に厳かに蘇生する。アイルッシュ・ハープの傑  
 作。w. Alec Finn, Cormac Cannon. 2005 作。Reiskmore Music)
- \*ANNE-MARIE O' FARRELL・CORMAC DE BARRA: Double Strung C  
 (もう長年コンビを組んで活動しているクラシック・ハープ・スタイルの名アイルッシュ・  
 ハープ奏者の Ann-Marie と伝統的アイルッシュ・ハープ・スタイルの名アイルッシュ・ハープ  
 奏者の Cormac のハープ・デュエット・アルバム。卓越した両名ハープ奏者が編み  
 上げた音楽は当然格別。選曲にはクラシックの曲も含まれている。一歩  
 先を行くハープ音楽。2005 作)
- \*DAVID MUNNELLY: Swing... B  
 (w. Sharon Shannon, Gavin Ralston, y, Andrew Murray, etc. 2001 作。  
 Hummingbird)
- \*DECLAN MASTERSON: Heartland B  
 (Moving Hearts や Riverdance のハープ奏者で Andy Irvine と Mosaic

や Patrick Street に参加のアイランドを代表するイアン・パイク奏者の  
すっぴんのアイリッシュから Moving Hearts 風フォーク・ロックから Riverdance 風  
アイリッシュと東欧音楽の融合音楽まで彼の幅広い音楽性が発揮された  
カラフルでエキゾチックなイアン・パイク音楽。FRCD05)

- \*NIALL O CALLANAIN: Strings&Things C  
(アコースティック&エレクトリック・ブラス奏者による多彩なアイリッシュ。w. Maire  
Bratnach, Mairtin O' Connor, Kevin Shields, Mario Ngoma。2001  
作?Peer Music)
- \*TEADA: Ceol & Cuimhne a  
(彼らはアイリッシュの魔法使い。ゲスト: Grainne Hambly。2010 年アイリッシュのペ  
スト・アルバム当確。2010 作。Compass)
- \*MAIREAD NI MHAONAIGH & FRANKIE KENNEDY: Ceol Aduaidh B  
(デジタル・リマスター、デジタル・パック {紙ジャケット} 83 作。Gael Linn)
- \*GAY, CONOR&SEAN McKEON: The Dusty Miller C  
(Leo Rowsome を師とする名イアン・パイク奏者の Gay McKeon に彼の二  
人の息子で共にイアン・パイク奏者の Conor と Sean も加わったトリオ名  
義の本作実に豪快なイアン・パイク音楽だ。しかもそこに Arty  
McGlynn が熱のこもったギターで熱風を注ぐ。アイリッシュ・パイク・ミュージッ  
クの真髄。2005 作。CDGMCK002)
- \*JOHN O' CONNELL: The Maid Of Ballingarry A  
(60~70 年代に "Singing Session" で活躍したというシュリ・ガ・ルークラの  
トラッド・シンガーの本作は Seamus MacMathuna と Diane Hamilton のコレク  
ションを音源に編集された John O' Connor の無伴奏トラッド集。全 15 曲。彼  
のレパートリーは三つのカテゴリに分類できるという。一つは地方の歌。  
これは一般的にユー・モス。二つ目はその他のユー・モスな歌で大部分が元  
気のいい歌。そして三つ目は伝統的スタイルのかしこまった歌。「トラッド  
・シンギングの最重要作」と評判。P12 のブックレット付。ED001)
- \*BARRY GLEESON: I Heard A Bird Dawn ¥700  
(イギリスならフォーク・クラブの音楽。ウェラン・フォーク・シンガーの Barry は気心の  
知れた音楽仲間とあるいはソで様々なパワートやコミカルな唄そしてイ  
エツやジョイスの詩や歌等を朗々とまた愉快地にまたお上品に唄ったり  
する。Kevin Conneff のパウロンの伴奏で見事なシャン・ノスを披露もする  
。これぞアイリッシュ! の大衆歌手だ。P20 のブックレット付。2005 作。Gleeman)
- \*WITHIN A MILE OF KILTY C  
(フェアマとの県境のリトウラムの北部の町 Kiltyclogher は人口約 150 人の  
小さな町。この町に集う名うてのフイター達 6 名 {John Gordon, Ben  
Lennon, Charlie Lennon, Brian Rooney, Maurice Lennon, Seamus  
Quinn} の過去 40 年以上の間の音源からの編集 CD。それぞれが凛と  
して個性的。Stockton's Wing の Maurice のみぐいの演奏で独特な  
風合いのアイリッシュで楽しませる。2005 作。Clo Iar-Chonnacta)
- \*ANDREW MURRAY: Hell Or High Water C  
(De Danann でヴォーカルを担当したことがあるというインシュボフィン島出身  
の唄が物凄く上手いシンガーのデビュー作。トラッドの名曲と SSW の唄がほ  
ぼ半々。それぞれの物語性のある唄をいいソで朗々とうたう。唄  
に結構痺れる深さとコクがある。w. Gavin Raiston, Aogan Lynch,  
Geoff Woods, Tim O'Brien, etc. 2005 作。Andrew Murray)



- \*DANU:Think Before You Think(傑作。2000 作。Shanachie) a
- \*DANU:All Things Considered a  
(アイリッシュ・トラッドの最高傑作の一枚。2002 作。Shanachie)
- \*DANU:The Road Less Traveled a  
(アイリッシュ・トラッドの最高傑作の一枚。2003 作。Shanachie)
- \*DANU:Up In The Air(2004 作。Shanachie) a
- \*SEAN DOYLE:The Light And The Half-Light a  
(元 Solas の John Doyle のソで素晴らしいソを披露していた John のお父さんのアイリッシュ・フォーク・ソング・スピリット漲る味わい深きソ。John Doyle のギター&ヴォーカルを筆頭に Liz Carroll, John Williams, Emer Mayock, Dirk Powell 他の控え目の伴奏がまた泣かせるほど見事。全 15 曲。2004 作。Compass)
- \*BEGINISH:Beginish B  
(Paul O' Shaughnessy, Paul McGrattan, Brendan Begley, Noel O' Grady。ゲスト:Maighread&Triona Ni Dhomhnaill, Arty McGlynn, Colm Murphy。98 作。Tara)
- \*VINNIE KILDUFF:The Boys From The Blue Hill a  
(ティン・ホイッスルの代表作。w. Charlie Lennon, Steve Cooney, Brendan O' Regan, Gerry O' Connor, Tommy Hayes, Seamus Begley, Cora& Breda Smyth。90 作。Mulligan)
- \*DESI DONNELLY&MICHAEL McGOLDRICK  
:Champions Of The North(Magnetic Music) C
- \*PAUL McGRATTAN&PAUL O' SHAUGHNESSY  
:Within A Mile Of Dublin B  
(元 Altan で現 Beginish のフィドル奏者 P. O' Shaughnessy とトコノール・スタイルの彼の演奏に魅了された屈指のフルート奏者 P. McGrattan のあうんの呼吸に唸られるフィドルとフルートのデュエット。95 作。FoeTain)
- \*HORSLIPS:Roll Back D  
(2 枚組ボックスCD。1 枚目はスタジオ録音で 15 曲入。2 枚目はライブ録音で 4 曲とそのライブ映像。久し振りの Horslips は何か丸くなったというか、70 年代の熱っぽさはなくなったが、煮込み味な洪さとコクが備わった。歳相応に熟したフォーク・ロック。2004 作。Horslips)
- \*JIM MacFARLAND:A Taste Of Tradition C  
(ヴェテラン・トラッド・シンガーのソロ。ギター弾き語りの 2 曲以外は無伴奏シンギングまたは家族とのアカペラまたは娘 Maria の無伴奏シンギング。ヴェテランの風格と味わい。P16 のブックレット付。2004 作。Jo-Sem Recordings)
- \*KEVIN KEEGAN:The Music Of Kevin Keegan C  
(1924 年東コノールウェイ生まれで米国ツアー中に米国に移住した Aughrim Slopes Ceili Band{1950 年代活躍}のソ奏者の個人録音やラジオ音源からの貴重録音集。回転が速いんじゃない?と思えるほどの早弾き。。全 23ソット。2004 作。Clo Iar-Chonnachta)
- \*SEAMUS TANSEY:King Of The Concert Flute B  
(Charlie Lennon がピアノでお付き合いの録音データ不明のかつての Seamus の演奏が 12ソット収録。Seamus の生き生きしたフルート演奏とソソを得た Charlie のピアノの伴奏ということもあろうが、音がえらい

いいなあ、と思ったら、「リマスター」と書いてあった。各種ダンスのリズムをきっちり刻みながらも、即興性と気分が反映された飛び跳ねるフルート演奏だ。2004 作。Sound)

\*EOIN DUIGNAN: Lumina D  
(ロー・ホイッスルの為に Eoin が作曲した 6 曲から成る組曲。テーマは宗教的なテーマで「誕生、死、復活の魂の旅」とか。w. Gerry O' Beirne {プロデュサーでもある}, Liam O Maonlai {ヴォーカル&ピアノ}, Steve Coulter, Maire Breathnach, Liam Bradley, James Blennerhassett, etc. 2004 作。Duigo Music)

\*PADDY KEENAN・TOMMY O' SULLIVAN: The Long Grazing Acre a  
(何の説明も要らないアイリッシュ・ミュージックの名盤。w. Mary Green, Triona, James Blennerhassett, Greg Sheehan, John Fitzgerald. 2001 作。Hot Conya)

\*MEMORIES OF IRELAND D  
(副題 "Songs from the 32 Counties of Ireland"。32 曲入 2 枚組 CD。アイルランド 旅行土産的哀愁のアイルランド 名曲集。2003 作。Wren)

\*MUIRIS O SCANLAIN: Teanam Ort C  
(アイリッシュ・ファン必聴! Muiris はアイルランド のデングル出身でオーストラリア在住のゲリック・シンガー。アイリッシュのみならずオーストラリアのトラッドも、またゲリックのみならず英語の唄もうたうが、一聴 Brendan Begley を想わず柔らかなシンギングはゆったりと郷愁漂う主にゲリック・トラッド。絶句のアイリッシュ。2003 作。DCMS0103)

\*SEAN GARVEY: The Bonny Bunch Of Roses C  
(ゲール語と英語のトラッドの収集家でシンガーかつ名ギタリストの S. Garvey の 2 枚目はデビュー作同様彼の誠実さとあたたかも伝承歌に蓄積した深みや愁いが素直に滲み出た緩やかな感動作。彼独特な叙情と年輪を感じさせる深い味わいは格別。w. Josephine Marsch, Eoghan Garvey, Liam Lewis, etc. 2003 作。Harry Stottle)

\*THE RED HAT BAND: Covering Ground B  
(CD-R。コークで生まれた Flook の Brian Finnegan & John Joe Kelly がメムバーの一応アイリッシュ・バンドと言えようが、約半数はシンガーの Deirdre Maynihan の唄をフィーチャーしたアイリッシュな軽快さと土臭さ香る SSW アルバム的で半数は Deirdre のタイトルと Diarmaid Moynihan のリアン・パイプスと Brian のフルートをフィーチャーしたブルターニュの曲を含むセッション曲。2003 作。Red Hat Music)

\*TOM CUSSEN & TONY HOWLEY B  
: There's Always Room In Our House  
(バンド・ヴォーとサクスのアイリッシュ。Shaskeen なんかで活躍のヴェテラン・バンド・ヴォー奏者の Tom と Desi Donnelly との競演等マンチェスター周辺で活動する異色のサクソ奏者の Tony とのな—あんかくすぐったいアイリッシュ。何かコミカルでホーム・パーティーっぽいおめでたい音楽。ゲスト: Geraldine Cotter. 2003 作?CHCD1)

\*CAITLIN MAUDE: Caitlin A  
(1982 年に若くして亡くなったコネラの異色のゲリック・シンガーで詩人の Caitlin の 76 年作が CD 復刻。すべて無伴奏。彼女の孤高故のどことなく孤独感漂う美しいゲリック・ソングの素晴らしさは言葉では言い

- 表せない。心翔ぶ。76/2003 作。Gael-Linn)
- \*SEAN O RIADA AGUS CEOLTOIRE CHUALANN  
:Geol Na nUasal (67 作。Gael-Linn) A
- \*SEAN O RIADA, SEAN O SE, CEOLTOIRE CHUALANN:Ding Dong A  
(67 作。Gael-Linn)
- \*CHIEFTAINS:The Bells Of Dublin(91 作。BMG) A
- \*CHIEFTAINS:Another Country(92 作。BMG) A
- \*CHIEFTAINS:The Celtic Harp(93 作。BMG) A
- \*CHIEFTAINS:Live From Dublin A  
(副題“A Tribute To Derek Bell”。2005 年。BMG)
- \*PADDY MOLONEY・SEAN POTTS:Tin Whistles(73 作。Claddagh) A
- \*PADDY MOLONEY:Silent Night A Christmas In Rome a  
(99 作。Wicklow)
- \*KEVIN CONNEFF:The Week Before Easter(88 作。Claddagh) A
- \*MICHAEL TUBRIDY:The Eagle's Whistle(78 作。Claddagh) A
- \*DESSIE KELLIHER:Banjoed C  
(「やっほー」の掛け声でもかけたくなる多彩なリズム飛び交う楽しい  
パブ・ミュージック。w. Mike McGoldrick, Peter Browne, Tony Byrne, Gary  
O'Brien, Pdraig O Se, Colin Farrell, etc. 2004 作。  
Dessie Kelliher)
- \*MEABH O' HARA&CONOR BYRNE:Bavan B  
(2000 年の TG4 Young Traditional Musician 賞受賞の女性フルート  
Meabh と Christy Moore の甥でフルート奏者の Conor のデュオ。決してテの  
品評会に走らない共感し合うアイリッシュの変拍子を要所要所に散りば  
めた憎いプレイ。見事!。2003 作。O'Hare&Byrne)
- \*NOEL LENAGHAN:No Trouble At All B  
(ベルファスト出身で長年ゴールウェイで音楽活動をしているフルート奏者でシガ  
ーの爽やかアルバム。フルートをフィーチャーしたインスト曲と歌ものがほぼ半々に  
収録された本作はインスト曲では聴き親しんだアイリッシュの名曲等を決し  
て慌てず急がずの緩やかな演奏で心を和ませ、トラッドを中心にした  
歌もの {ゲリラックも 1 曲} ではアイリッシュ〜オールド・タイム〜ブリテン島のニュア  
スの広い意味でのフォーク/ルーツ・ミュージックに根ざした肩肘張らぬ素朴で  
真摯な唄で心和ませてくれる。2003 作。Long-eared Owl)
- \*FALLEN ANGELS:Fallen Angels C  
(女性アパレー5 人組。ゲリラックを含むアイリッシュからスコットランドのマス・ミュー  
ック、英国トラッド、カナダのかて & Anna に Pete Seeger や Utah Philips 等  
のアメリカン・フォークそして“Over the Rainbow”等を 5 人のソロと合唱等で  
美しく聴かせる。全 14 曲。92 作。Magnetic Music)
- \*MAIRTIN O' CONNOR:Rain Of Night a  
(アコ魔術師 M. O' Connor の本作はアイリッシュの小技大技を駆使した空想  
的なアコ音楽。名人芸。2003 作。Mairtin O' Connor)
- \*MARINA MEYLER:Champion Of Ireland "Banjo" ¥2180  
(パブ・ミュージック・チャンピオンによる模範演奏集。2003 作。Connoisseur)
- \*GAELIC ROOTS D  
(ホースト大学での録音集。2 枚組。Liz Carroll, Paddy Keenan, Seamus  
Egan, John Williams, Cathal Hayden, Natalie MacMaster, Tony

- Cuffe, Jackie Daly, Maire O'Keefe, Daithi Sproule, James Kelly, Johnny O'Leary, Joe Derrane, Robbie Hanna, Gerry O'Connor, Jerry O'Sullivan, Eileen Ivers, James Keane, Buddy MacMaster and more! 97 作。Kells)
- \*A WOMAN'S HEART "A Decade On" B  
 (Sinead O'Connor, The Corrs&Chieftains, Marcia Howard&Mary Black, Frances Black, Sinead Lohan, Eva Cassidy, Maighread&Triona, Cara Dillon, Mary Black, Juliet Turner, Sharon Shannon &The Wild Bullocks, Cathie Ryan, Dolores Keane・Tommy Sands・Vedran Smailovic, Eleanor McEvoy, Dolly Parton with Altan, Mary Coughlan&The Cafe Orchestra, Maura O'Connell, Alison Krauss による全 18 曲。2002 作。Dara)
- \*IRISH FAVOURITES ¥1380  
 (Tony MacMahon, Frankie Gavin&Charlie Lennon, Kevin&Seamus Glackin, Mairead Ni Mhaonaigh&Frankie Kennedy, P. J. Marcus Hernon and more。全 16 曲。2001 作。Forever Gold)
- \*IRISH SESSIONS ¥1380  
 (De Dannan, Clannad, Brian Hughes, Mary Black&General Humbert, Dolores Keane, Paddy Glackin, Paul Brock&The Moving Cloud and more。全 18 曲。2001 作。Forever Gold)
- \*NIALL KEEGAN:Don't Touch The Elk B  
 (フルト・ソロ。選曲はケリー・ハント<sup>°</sup> 在籍時やセッションで覚えた数々のアイリッシュに加え Andy Cutting {2 曲}, Emile Benoit {ニュー・ファントランド<sup>°</sup>}, Serge Desaunay {フランス} 等だが、ジャズ<sup>°</sup> のフリー・フォームな即興性とスウィング<sup>°</sup> 感をキープしたアイリッシュ・ダンス音楽とでも表現できる音楽。w. Micheal O Suilleabhain, Verena Cummins, Chris Kelly, Sandra Joyce。99 作。Elk)
- \*IRISH FOLK FAVOURITE ¥2880  
 (お買い得の 4 CD セット。Kilfenora Ceili Band {34 曲!}, Mick Moloney {16 曲}, Sweeney's Men {13 曲}, Finbar&Eddie Furey {14 曲}, Dubliners {13 曲}, Grehan Sisters {11 曲}。98 作。Castle)
- \*EIGSE DHIARUIDIN B  
 (シンガーでジャーナリストだった故 Diarmuid O Suilleabhain を偲んで毎年開かれているコンサートのライヴ<sup>°</sup>。Maighread Triona&Micheal O Domhnaill {3 人兄妹唄う "An Saighdiuir Treigthe" に涙...}, Kevin Grackin Paddy Grackin&Micheal O Domhnaill, Mary MacNamara, Connie O'Connell Hammy Hamilton&Tom Stephens, Seamus Begley&Jim Murray, Peadar O Riada Eamonn McGivney &John Kelly, Noel Shine&Mary Green, John&Pip Murphy, Sean O Liathain, Maeve Donnelly, Voice Squad and more。アイリッシュ真髓ライヴ<sup>°</sup>。全 17 曲。詳細解説付。2001 作。Clo Iar-Chonnachta)
- \*THE ALIAS ACOUSTIC BAND:1798—1998 Irish Songs Of Rebellion, Resistance&Reconciliation D  
 (2 枚組 CD。全 37 曲。98 作。Proper)
- \*JOSEPHINE MARSCH BAND:I Can Hear You Smiling A  
 (名実と共にアイルランド<sup>°</sup> を代表する女性アコ奏者 Josephine の本作は

Sharon Shannon 級のアイリッシュ的素晴らしさ。アイリッシュの心溢れる傑作。  
2001 作。J. Marsh Band)

- \*NOEL SHINE&MARY GREENE:Unspoken Lines G  
(アイルランドで信望の厚い男女フォークデュオ。Mary Black のヒットで有名な  
Mary Greene 作“Wrap You Up”を含む最新作は唄の本来の温もりや  
肌触りがそのままナチュラル・バックされた心に深く残るもの。穏やかな  
風のようにゆったりとした Mary のヴォーカルはどれも心からのもの。  
w. Mairtin O' Connor, Declan Sinnott, John Spillane, Pat  
Crawley, etc. 2001 作。Tigerdog)
- \*CHRISTY MOORE:The Box Set 1964-2004 ¥4580  
(多数の未発表&貴重音源含む 101 曲収録 6 枚組。2004 作。Columbia)
- \*SKARA BRAE:Skara Brae(71 作。Gael Linn) B
- \*PLANXTY:Planxty(73 作。Shanachie) a
- \*PLANXTY:The Well Below The Valley(73 作。Shanachie) a
- \*PLANXTY:Cold Blow And The Rainy Night(74 作。Shanachie) a
- \*PLANXTY:Words&Music(83 作。Shanachie) a
- \*RELATIVITY:Gathering Pace a  
(Michael O Domhnaill, Triona Ni Dhomhnaill, John&Phil  
Cunningham による Relativity の 87 年作。Compass)
- \*PATRICK STREET:Compendium a  
(“The Best Of Patrick Street”。全 14 トラック。2000 作。Green Linnet)
- \*THE SEVILLE SUITE B  
(Bill Whelan, Andy Irvine, Liam O' Flynn, Donal Lunny, Nollaig  
Casey。92 作。Tara)
- \*AINE FUREY:Sweet Summer Rain A  
(アイリッシュ・トラッド・ファンよりブリティッシュ・フォーク・ファンあるいはかすかにケルトの  
雰囲気薫る女性シンガー・ファンにお勧めのたおやかな女性シンガーのデビ  
ュー作。Finber Furey の娘さん。Aine のヴォーカルはケルティックな桃源郷的音  
作りとともに肌と心に優しい…。Aine は Sandy Denny と Anne  
Briggs のファン。99 作。Celtic Connections)
- \*CRAOBH RUA:If Ida Been Here, Ida Been There A  
(ベルファストの 4 人組の 4 枚目。2000 作。Lochshore)
- \*THE ABBEY CEILI BAND:Beal a' Ghleanna(2002 作。Glanlea) A
- \*THE BOFIELD CEILI BAND:100 Years A Growing A  
(メイヨーのボフィールドの 100 年の歴史を持つケリー・バンドの結成 100 周年記  
念アルバム。Produced by Peter Browne。2000 作。Hummingbird)
- \*MARINA CASSIDY:Listen A  
(女性クラシック・ハープ奏者でシンガーの M. Cassidy による Carolan 3 曲を含  
むアイリッシュ・ソング&メロディーを中心にした心休まる音楽。ティー・タイム向きか  
しらん?全 19 曲。98 作。Harpbeat)
- \*JOHN REGAN:Let Down The Blade A  
(数々のケリー・バンドやセッションでの百戦練磨のアコ奏者 J. Regan によるリ  
ズム感バッチリのパワフルなアコースティック・アルバム。w. Paddy Glackin&Mary  
Corcoran。全 19 曲。99 作。自主制作)
- \*PHIL GALLERY:From The Edge Of Memory A  
(Voice Squad の P. Gallery のソロ。アイリッシュというよりブリテ

- イッシュ・トラッド的気品とリリズム漂うフォーク。w. Liam O' Maonlai, Brian Kennedy, Steve Cooney, Dermot Byrne, Frankie Lane, etc. 99 作。Tara)
- \*CARMINA: Weather In The Heart B  
(ご存知 Donal Lunny のデュオによるコンテンポラリーな女性 SSW アルバム。シキ  
ーなアイリッシュ・サウンドとジャンパーなサウンドとがミックス。Carmina のヴォーカルはジ  
ャナルを超えた魅力がある。w. D. Lunny, John McSherry, Laoise Kelly,  
etc. 98 作。Rhiannon)
- \*MARY STAUNTON: Bright Early Mornings B  
(メイヨー出身のフュージョニストであり優れたトラッド・シンガーだ。13 曲中 5 曲でのヴォ  
ーカルは Dolores Keane っぽい。w. Sharon Shannon, Alec Finn, Frankie  
Lane, Steve Cooney, Matt Crannitch, etc. 98 作。Fuschia Music)
- \*ARCADY: After The Ball (ヴォーカル: Frances Black。91 作。Dara) B
- \*ARCADY: Many Happy Returns B  
(ヴォーカル: Niamh Parsons。96 作。Dara)
- \*SKIRM&DEZI DONNELLY: Welcome C  
(副題 "Live in Hamburg"。95 作。トイム Magnetic)
- \*JOHNNY DUHAN: Family Album (90 作。1st。Round Tower) B
- \*JOHNNY DUHAN: Just Another Town (2nd。Bell) C
- \*JOHNNY DUHAN: Don Quixote (3rd。Bell) C

### [CD/クリア地方の音楽]

- \*MARY MacNAMARA: Traditional Music From East Clare A  
(w. Martin Hayes, PJ Hayes, Seamus Quinn。94 作。Claddagh)
- \*MARY MacNAMARA・ANDREW MacNAMARA: Open Hearth (MAC001) B
- \*THE LAHAWNS: Live At Winkles B  
(Andrew McNamara, Breda Smith, Jimmy Higgins, Jim Corry, Kevin  
Hough の Lahawns のライブ。97 作。Lahawns Music)
- \*MARY CUSTY・EOIN O' NEILL: The Ways Of The World D  
(w. Kevin Griffin, Steve Wickham, Davy Spillane, Tommy Hayes  
他。1991 作。Celtic Music)
- \*SOCKS IN THE FRYING PAN: Socks In The Frying Pan B  
(「フライパンの靴下」を名乗る野郎三人 = Shane Hayes [フュージョニスト]、Fiachra  
Hayes [フィドル]、Aodan Coyne [ギター、ヴォーカル] = の変化球多数、変幻自  
在なアイリッシュの、何とも楽しいこと。おどけた音楽は凄技多数の滅茶  
苦茶凄演奏。フュージョニストが、フィドルが、ギターが躍りまくる。彼らはクリアのゲ  
ループだが、音楽を聴く限りでは、クリアの伝統音楽風ではない。オール・ア  
イルランド的ダンス音楽を材料にフライパンで料理して遊んで楽しむ風。そ  
んなダンス曲の合間に Aodan の見事な唄が入る。この Aodan のシンギング  
が嘘みたいにかりっとして素晴らしい。お笑いとお真面目とが同居し  
た得した気分のアルバムだ。飛び跳ねる演奏は並じゃない！2013 作。  
Socks In The Frying Pan)
- \*IRISH TRADITIONAL CONCERTINA STYLES  
- Twelve Great Players From the 1970s (74 作。Free Reed) B
- \*TONY MacMAHON: Tony MacMAHON A  
(ご存知、クリアのミルトン・マルビー出身で初代 Bothy Band のメンバーでもあつ

- た名アコ奏者の T. MacMahon の 72 年のデビュー作。72 作。Gael-Linn)
- \*TONY MACMAHON: MacMahon From Clare A  
(T. MacMahon の 2 枚目。共演者は Joe Cooley, Seamus Connolly, James Kelly, Barney McKenna, Peadar Mercier, Liam O' Maonlai。2000 作。MacMahon)
- \*HELEN HAYES: Today, Tomorrow & On Sunday B  
(Martin Hayes の妹さんでトラッド・シンガーの Helen Hayes のトラッド・シンキング・アルバム。終始、Martin Hayes&Dennis Cahill が空気のような演奏で、Helen の唄たちを優しく包んでいる。w. Martin Hayes&Dennis Cahill, John Williams。2008 作。Helen Hayes)
- \*PADDY MURPHY: In Good Hands B  
(クレアのコンサティーナ音楽の歴史的名盤。オール・アイルランドの第一回目のチャンピオンでアイリッシュ・コンサティーナをクレアで広めたコンサティナ名人 P. Murphy {1913~1992} の 1958 年から 1980 年代の音源 {自宅やパブ等で収録} からの 28 トラック。Produced by Peadar O' Loughlin&Gearoid O hAllmhurain。2007 作。Celtic Crossing)
- \*GEAROID O hALLMHARAIN  
: Traditioal Music From Clare And Beyond B  
(コンサティーナ奏者でクレア音楽研究者の Gearoid 氏によるクレア音楽の名盤。ゲスト: Peter O' Loughlin, Martin Hayes, Paddy Canny, Janet Harbison, etc. P20 のブックレット付。96 作。Celtic Crossings)
- \*GEAROID O hALLMHARAIN & PATRICK OURCEAU: Tracin' B  
(back in stock。副題 "Traditional Music From The West Of Ireland"。99 作。Celtic Crossings)
- \*LAUREL MARTIN: The Groves a  
(アイルランドの伝統音楽の CD 付楽譜 "Forget Me Not" の編纂者 {クレア出身のフィドル奏者 Seamus Connolly との共著} で米国人女性アイリッシュ・フィドラーの Laurel の本作は、クレアのフィドル・ミュージックと伝統的アイリッシュ・フィドル・ミュージックの最良の部分を手製に保持していて、静かな名盤。2006 作。Laurel Martin)
- \*DAN POSSUMATO: Land Of Sunshine A  
(米国はピッツバーグの出身のアコーディオン奏者だが、音楽はクレアの空気たっぷり。本作はパブや自宅で好きな音楽仲間とセッションして楽しむタイプの音楽で、大半はバンジョー又はギターとのセッションを軸に進行して行く。セッション相手は Jerry Mulvihill {バンジョー}, Quentin Cooper {バンジョー、ギター他}, Allan Wallace {ギター} のクレアのトップ・プレイヤー達。2006 作。Dan Possumoto)
- \*RONAN BROWN AND PETER O' LOUGHLIN: The South West Wind B  
(副題 "Traditional Music From County Clare"。Claddagh)
- \*PADRAIG RYNNE: Bye A While C  
(クレアからスキップ気分でのデビューの鮮やかなコンサティナー・ミュージック。w. Tola Custy, Arty McGlynn, John Jo Kelly, John&Paul McSherry, Mirella Murray, Kevin Dorris, Donal O' Connor。Padraig Rynne)
- \*TURLOUGHMORE CEILI BAND: Seven Streams C

(ご存知 Denis Liddy 氏率いる女性と男性が半々の 10 名のクワで人気のケリー・バンドの 2 枚目。2005 作。Tig Na Coille)

- \*TOMMY PEOPLES: The Iron Man a  
(with Daithi Sproule。76 作。Shanachie)
- \*TOMMY PEOPLES&PAUL BRADY: The High Part Of The Road a  
(76 作。Shanachie)
- \*TOMMY PEOPLES: Waiting For A Call a  
(約 20 年振りに日の目を見た Alec Finn のデビューの 85 年頃録音の本作は Alec が即興的にサポートした清々しいアイリッシュ・フォーク・ミュージック。  
ゲスト: Donal Lunny, Sean Potts。2003 作。Shanachie)
- \*THE KILFENORA CEILI BAND: Live In Lisdoonvarna B  
(熱狂的ライブ。バンドの本体は 1870 年に創設された鼓笛隊だったので、バンドの歴史が P7 にわたって綴られている。2002 作。Dolphin)
- \*PEGGY McMAHON: The Parting Way Of Time D  
(副題 "Traditional Singing From West Clare"。伝統音楽に囲まれて育った Peggy ばあさんの無伴奏民謡集。お父さんやおばあさん、それに友達から習った唄を耳元で唄い聴かせるように優しくまた生き生きとシングする。全 14 曲。P12 のブックレット付)
- \*JOHNNY McCARTHY: Solo Run B  
(副題 "Traditional Music From The Capital Of Clare"。w. Alph Duggan。2002 作。Twin)
- \*MICHÓ RUSSELL  
: Traditional Irish Music From County Clare C  
(CD-R。76 作。Celtic Music。正規盤)
- \*SHASKEEN: Atlantic Breeze B  
( "Traditional Irish Music&Song"。Faoileann)
- \*SHASKEEN: 25th Silver Jubilee Collection B  
(全 22 曲入。95 作。G. T. D. Heritage)
- \*SEAMUS WALSH: Clare Accordion B  
(w. Mark Kelly, Brendan Larrisey, Jimmy Higgins, Tommy Hayes, etc. Ceol Music)
- \*RE-JOYCE "Tunes And Songs From The Joyce Collection" B  
(1909 年にリリック出身の P. W. Joyce によって編纂された "Old Irish Folk Music And Songs" からの選曲。Jackie Daly, Maire O'Keefe, John Faulkner, Donal O' Connor の 4 名グループによるダンス曲と唄の数々はアイリッシュのコアの味わいそのもの。リリック周辺の古きアイリッシュが今蘇る。2003 作。Rejoyce)

### [CD/IRELAND, SCOTLAND 他]

- \*TELYN Y CELT - TRAD HARPS C  
(Wales, Ireland, Scotland, Bretagne のケルト圏のハープ奏者の編集 CD。  
収録順に Corrina Hewat, Laoise Kelly, Meinir Heulyn, Sileas, Gwenaél Kerleo, Crasdant, Maire Ni Chathasaigh&Chris Newman, Delyth Jenkins, Cormac De Barra, Dominig Bouchaud, Robin Huw Bowen, Wendy Stewart, Alison Kinnaird, Rhes Ganol, Gwenola Ropars, Grainne Yeats, Ar Log, Cormac De Barra with Anne-



Marie O'Farrell。2004 作。Sain)

\*DIAMOND MOUNTAIN SESSIONS PRESENTS... ¥1000

(featuring Natalie Merchant, Steve Earle, The Waifs, Declan O'Rourke, Pauline Scanlon, Ger Wolfe, Sharon Shannon, Rosey, Damien Dempsey, Sinead O'Connor, Siobhan Parr, Mundy, Mary Shannon{収録順}。全 13トラック。2004 作。Daisy)

\*CELTIC JOURNEY"Gentle Breeze" ¥1480

(Kevin Crawford, Joanie Madden, Matt Molloy&Sean Keane, Seamus Egan, Joe Burke, Kornog, Frankie Kennedy&Mairead Ni Mhaonaigh, Jack Coen, Deanta, Jerry O'Sullivan。全 13 曲。99 作。Eureka)